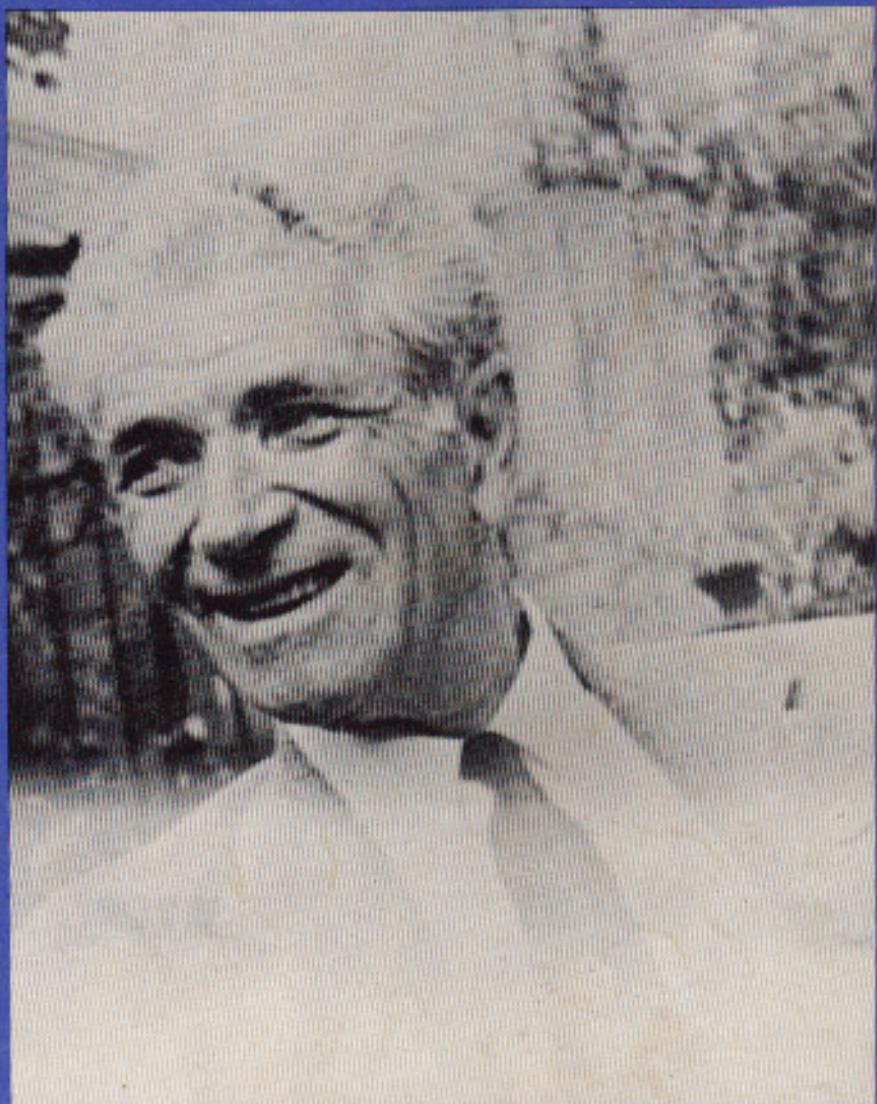


UF0と宇宙哲学の研究誌

GAPニュースレタ-

No. 60



GAPニュースレター 第60号目次

コズミック・コンシャスネス	
〈巻頭言〉 宇宙の意識	1
ジョージ・アダムスキー	
スペース・ブラザーズはなぜ来るのか	2
〈写真〉パロマー・ガーテンズのアダムスキー・グループ	9
宇宙の息子や娘たちの同胞愛 〈シンボルマークの意義〉	10
ルウ・チンシェーターク女史会見記 久保田八郎	11
世界最大の円盤物語 グレイ・バーカー	24
火星の生命 フレッド・ステックリング	29
高知支部大会・熊本支部大会開催	37
日本GAP総会開催・大盛況！	38
月例研究会案内	40
編集後記	41



GAPとは

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”的な子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍在している事実を確信をもって知ること」がありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”的研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることがあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群から偉大な発達をとげた人類が地球を訪問しつつある。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の起源と未来の運命の真実を知るのに有益である。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。
写真共禁無断転載。

歐米を歩いて痛感するのは、どこへ行っても人間はみな同じだということである。同じということは地球上の人間の思考力や感覚に大差はないという意味で、ある限界以上にテレパシックな洞察力を持たないということである。その点では一国の最高首脳も無名の市井人も同様であろう。若干の相違は語彙の大小と知識の高低ぐらいのもので、その知識にして多読力と記憶力が土台になつてゐるにすぎない。一見して他人の性格や能力が見抜けないために、従業員の採用にあつてはテストをし経歴を調査するが、それでも信用できない場合があり、信頼してもトラブルが発生したりする。地球とは油断も隙もならない疑心暗鬼の世界であるといえよう。もちろんこれは人間の世界であつて、自然界ではない。

しかし「他人は信用できない」というのは「センスマインドは信用できない」という意味であつて、人間の内奥に潜む宇宙の意識——創造パワー・英知・生命——を無視するわけにはゆかない。自己の内部に宿る宇宙の意識を認識するのなら、当然、万人や万物に内在する意識も認識しなくてはならない。むつかしい事だが、他人の狂ったマインドに同調しないで、その人体を創造し生かしていける英知あるパワーに同調するのである。

そしてこれが危機を突破する最大の秘訣であると思われる。なぜか？ 万物を創造した宇宙の意識は被創造物を豊かな美しい完成された姿に仕立て上げようとしているに違ひなく、その創造波動に同調すれば自己がその方向に展開

こそすれ、悪くなる筈はないからだ。如何なる逆境に置かれようとも、苦痛のどん底に陥らうとも、常に人間には最大の味方がある。それは自己の内部に宿る宇宙の意識である。

およそ大宇宙の中で自分にとつてこれほど心強い支持者はない。自己のマインドを内部の宇宙の意識に同調させて、何が起ころうと自分は絶対に大丈夫だ！ という強烈な信念を持ち、内奥の意識から洩らされる啓示にマインドの耳を傾けるならば、もう恐怖すべきものはない。悲痛、绝望、恐怖等は、この宇宙の意識の存在にマインドが気付かない

コズミック・コンシャスネス 宇宙の意識 Cosmic Consciousness



で見るような感覚を起こすのである。これは万物を見るときに常に必要である財布が空になり、明日の食事代の捻出が不可能になつても恐れることはない。静座して瞑目し、内部の意識から来る声で、「こうすればよい」という直感的な印象として感じられるのである。またこの印象が容易に得られなくても心配すれば、マインドは気付かなくて、いつのまにか自分が救われる方向に動いていふことになるのだ。それは気持よく金を貸してくれる人の方へ足を向けているかまたは給料前借りで雇つてくれる仕事にありつけるような求人広告をフト見たりすることになるのである。

人間およそ如何なる事態に直面しようと、悲觀や绝望は絶対に禁物である。このような言葉は筆者の辞書にはない！ 悲觀とか绝望とかいうものは「一緒に死んでくれ」と繰りついてくる亡者の感情である。相手の狂ったマインドに同調しないで、相手に大声を出させる生命力に感激しているのであるから、こちらは腹の立ちようがない。こうなると怒氣満面の相手の顔をテレビの画面を見るように客観視できるようになる。名演だなあ！ と拍手を送りたくなるのである。これは相手を揶揄しているのではなく、内在する宇宙の意識を意識した上で表層面に対する客観視である。その場合、自分の肉眼で見るのでなく、内部の「意識の眼」

いう聖ペウォの言葉は至言とは思えないが、とにかく労働が要求される。ここで錯覚を起こしてはいけない。我々は食わんがために働いて儲けるのであって、儲けんがために食つて生きているのではない。しかしこの錯覚がまかり通つて常識になつてしまつた。限界のある物質の財産を目指として競うのだから、紛争の絶え間がない。少しでも貯まると欲望は果てしなく展開する。そこにつきまとうのは尽きることのない人間のトラブルである。

どうすればこの混乱した世界を生き伸びることができるか。実行は容易ではないが答は簡単である。「生きられる！」 という確信を持つことだ。これしかない。その信念を支えるものこそ肉体内に宿つて燐然と光り輝いている宇宙の意識である。これは人間を良き方向に生かそうとすれば、破壊的な推進をする筈はない。だから、まずこれに任せることだ。

読者のなかには何かの事情で悲歎の涙にくれている人もあるだろうし、精神や肉体の苦痛に苛まれている人もあるだろう。しかしその涙と苦痛を瞬時に払拭させる奇蹟を起こすことは可能である。

まず静かな場所を求めてリラックスし、自分のイメージを強烈に描くのよ。四官（眼・耳・鼻・口）をコントロールして（つまり周囲の現象に惑わされないよ）自身の肉体と万物に宿る宇宙の意識を感じ、大宇宙空間との一体感を起こしながら、自分が良くなつた姿のイメージを強烈に描くのである！ 描き終わつた後は宇宙の意識と万物に感謝する。これを続けばよい。

スペース・ブラザーズは 宇宙船建造！なぜ来るのか？

この太陽系から、なぜ大宇宙空間へ進出しなければならないか

ジョージ・アダムスキー

この記事は一九六五年四月十日、すなわちジョージ・アダムスキーが死去する十三日前、米ミシガン州デトロイトで行った最後の講演のテープ録音を全訳したものである。全力を振りしほって絶叫するその声はすさまじい迫力と気魄に満ち、宇宙の彼方から高貴なる想念が反響して、全人類を燃然たる祝福と希望の光で包むかの如く、聴く者をして圧倒せしめる世纪の大演説であり、二千年前に街頭で説いたイエス以来の真理の言葉であるといえよう。このテープを入手して提供された会員案浦浩二氏に深く感謝する次第である。（編者）

みなさん、今晚は。

今晚の講演者をご紹介致します前に、初めてジョージ・アダムスキー氏に接しられる方々のために、氏の背景について少しばかりお話ししたいと思います。

アダムスキー氏はカリフォルニア州から来られた著述家、天文学者、哲学者、そして宇宙問題の講演家であります。

一九五九年に氏はUFO問題で世界講演旅行を行われ、各国の多数の高位の人々から会見を求められました。オランダのユリアナ女王に謁見あけんしましたし、イギリスの大臣たちとも会いました。国連で講演をし、最近はマーガレット・チエイス・スミスのような上院議員やジョン・マコミック下院議長たちの前で講演を行いました。この方々に映画を見せましたが、これは今夜、ここで上映されるこ

題する四点目の著書を書いておられます。また現在は、人間と人間を支配する法則を伝えた『生命の科学』というヨースも出していらっしゃいます。今晚ここにそのアダムスキー氏をお招きしましたので、氏のお話の内容を各自でご判断下さいますよう、そして他の世界から来る飛行体が地球を訪問しているという事実をよくお聞き下さい。

これ以上お話ししますと私が講演することになりますので、かわってアダムスキー氏をご紹介いたします。（拍手）

× × ×

とになっています。氏はまたテレビやラジオで数百万の人々に話していますし、生命的の科学の指導者であります。三点のUFO書以外に『宇宙哲学』と題する四点目の著書を書いておられます。また現在は、人間と人間を支配する法則を伝えた『生命の科学』というヨースも出していらっしゃいます。今晚ここにそのアダムスキー氏をお招きしましたので、氏のお話の内容を各自でご判断下さいますよう、そして他の世界から来る飛行体が地球を訪問しているという事実をよくお聞き下さい。

他の惑星から訪問者が来るという事実に関して世界中にミステリーが存在する

理由は、曲解のためです。恐るべき曲解が訪問者にかわって発生しています。

今日、さまざまの宗教があり、そし
た宗教すべてのものに神がとり入れら
れていますが、UFO問題は宗教とは関
係ありません。端的に言えば神とも関係
はないのです。しかし神はいつもあらゆ
る面の背後にあります。神を利用する必
要はありません。

UFO問題は純粹に科学的なものなの
です。まずそのことを話しましょう。

だれかにコンタクトが行われる場合、
——現在多くの人がコンタクトを望んで
いますが——、そのコンタクトをするた
めには、少なくともそのコンタクトに奉
仕する立場にあることが必要です。皆さ
ん方がお聞きのとおり、今までに多くの
コンタクトがあり、本人たちは人々に講
演をしました。私も講演をしました。そ
して今日（コンタクトしていると称する
人々によれば、宇宙人は）いつも同じ古
い話を伝えていました。新しいものは何も
ありません！「こんにちは。今から千年
後にもまた会いましょう」と言うだけのこ
とで、宇宙人が人間にコンタクトすると
思いますか？ノウ。彼らはこの宇宙が
創造しているあらゆる個々の動きに対し
て、特に我々の太陽系と地球の動きに対
して我々の眼を覚まさせるためにコンタ
クトをするのです。したがってコンタク
トは続けられるべきでした。私は毎年
四、五回のコンタクトをしています。緊
急時にはもつとコンタクトをしました。
この世界では物事が急速に変化していま
す。今日という日は一年前の状態とは違
います。

宇宙人は善良な人間を助けて悪人を大
に食わせるために来たのではありません
。そういう性質の目的で地球へ来るの
ではないです。彼らは人間とコンタク
トをするために来たのです。その大きな
目的は純粹に科学的なもので、地球ばかり
でなく太陽系までが変化しつつある実
状を伝えることにあるのです。我々の太
陽系は恐ろしい変化を起こしつつあり、
それは地球自体よりもはるかに大きな変
化でもあります。それが我々地球人ばかり
ではなく、他の惑星の住民たちをも含
む大変動になります。

つい先日、だれかが「地球は自転が遅
れつつある。太陽系もそうだ」と言つて
いるのを聞きました。科学で達成された
成果に注目すれば、これは真実だとい
ふべきです。しかしすべての科学
者がこれに同意しているわけではありません。
科学者が何かを発言すると私たち
は言外の意味を汲み取る必要があります
。これは彼らが論文で何かを発表する
と、言外の真相を汲み取らねばならない
のと同様です。昨年——ほぼ一年前のこ
とですが——私が、ワシントンにいたと
き、ラジオやテレビが市民の時計を夏時
間に変えよと放送していました。そのと

き地球は二十四時間ごとに一分間遅れて
いるのだとも言つていました。これは遅
れすぎです！一分間はあなた方にとつ
てたいしたことではありません。それ以
来、太陽系は更に遅れているということ
になります。

この事は二通りに扱えます。まず一通
りの扱い方をお話しして、それから次に
移ることにしましょう。

聖書には次のようなイエスの言葉があ
ります。「天とは上を意味する」。空は
“天”と呼ばれます。天文学者さえも
わち全空間は天です。宇宙の構造は天で
す。

機構は眼に見えないものです。人間を
支えるものは、人間と人間のあいだに存
在するこの眼に見えない力です。そこに
は狂氣もなく、非実在なるものもあります
。我々が感じてその内部で行動して
いるこの不可視の力を除いたとすれば、
どれだけ生きられるでしょう。

イエスはまず“天”と言いつて
して地”と言つて、「それらは過ぎ去る
だろうが、私の言葉は永遠に滅びること
はない」と述べています。天が存在しな
いとなれば、その言葉は永遠に“どこ”
にあるのでしょうか？イエスは次のよう
にも言っています。「新しい天と新しい
地がとつて代わるだろう」。したがつて
予言が実現するかもしれないのは、この
面です。私は「かもしれない」と言いま
す。

また別な、純粹に科学的な面もありま
す。つまり、もつと急速に流れれる生命の
ために利用するのではなくて、それに本當

面を私たちに気づかせる面です。なぜな
ら、私たちはこの世界で、他のあらゆる
物から孤立して生きており、この世界以
外の他の場所へ肉体を持つては行けない
と教えられてきたからです。しかし彼ら
は（UFOは）現場に現われています。
他の人々が彼らについて何を教えようと
うとも——。UFOは最重要事だと言わ
れました。しかし彼ら宇宙人はみな
なさんと同様に人間なのです。

なぜスペース・プラザーズは来る のか

彼らは地球人の知性に挑戦してきました
。みんなが空中を見上げたり、ジエック
機がUFOを追跡したり、飛行機が追
いかげたり、始めから多数の人々が見た
りするとき、地球の目撃者たちは人間の
姿を見なかつたでしょうし、その顔も見
なかつたでしょうが、何かの知性体がそ
れを操縦していることはわかっています
。私たちの知性をはるかに超えたやり
方で操縦していたからです。その結果、
彼らは我々の知性に挑戦し、そのため
に彼らは一種の宇宙開発計画を持つこと
になりました。これは純粹に科学的なも
のです。まず第一に、それは私たちをして
ます。まず第一に、それは私たちをして
地球の彼方を考えさせます。第二に、そ
れはこの文明を教うものにはかならない
と考えられるのです。これは全く科学的
なものです。たとえば、人間がヒューマ
ニティーというものに対して、お金のた
めに利用するのではなくて、それに本當

に关心を持つならば、それから脱却できるでしょう。

あなた方は歴史をさかのぼれば大小の戦争は世界の経済が破綻したために起つたという事実がわかるでしょう。米国が朝鮮戦争に入れたのは遠い昔ではありません。それは“経済の後退”と言わっていました。今日、私たちは、自由に与えられれば三十日で私たちを絶滅させるような武器を手にしています。私たちは現在の文明をはるかに超えていたアトランチスよりももつと危険な状態にあるのです。

コンタクトの目的

私たちは長いあいだ冷戦を続けてきました。そして、あなた方が、神が与えてくれた心でもって推理するならば、もし冷戦がなかつたならば今頃は人間の大部分はどこで生きているかが、おわかりでしょう。どうしようもないでしょう。

この疑問に対しては一つだけ解答があります。再び戦争があるということです。

今度は全人類が影響を受けるでしょう。私たちは世界の最優秀な人や最も冷静な人さえも、これらを信用すれば最後には必ず自暴自棄になつて、間違つたボタンを押すかもしれません。私たちは最悪の状態にあるのです。自分で自分を救わない限り、だれも自分を救つてくれないのです。これは他人が自分に代わつて食物を食べててくれて、しかも自分が満腹しないのと同様です。したがつてあなた方を救つてやろうとしたり、それがどんなに

美しいかを語つたりする人々を信用してはいけません。特にプラザーズと称する人がやって来て、あなたを救い出してくれると言ふ言葉を信用しないことです。こんな話には真実は全く存在しません。

私は一年間に五、六度コンタクトをしてきました。緊急時ともなればもつと彼らは度々私の家に来て話しました。これはあなた方が気づく以上にはるかに重要なことです。そして真相は小さなかたちでも知られるでしょう。だから私は今日演壇にいるのです。来週土曜日に私は七十四歳になりますので隠退してもよいのですが、もう少し人々を援助して人々の眼を覚まさせ、眞実に気づかせることができるとすれば、仕事を続けましょう。

この宇宙開発計画は、かつての戦争に協力させられた——させられなかつた人々

もあるでしようが——一千五百万の人々がすでにたずきわっています。もし私たちが現在前進している割合で前進し、発生している物事をもう少し認識し、次の一、二年間で理解力をもつてそれを支持するならば、私たちはすべてがわかるでしょう。わが米国民のみならず、世界中の人々が宇宙開発に努力するでしょう。米海軍の艦船団を建造するには多年を要しました。宇宙船団を建造するにはもつと多年を要するでしょう。それが防衛、研究、輸送のいずれであつても、問題ではありません。あらゆる人々がその仕事にやとわれることになるでしょう。この宇宙船団は地球で建造される必要があります。私たちはその技術を持っています。それはすでに宇宙人によって我々に与

えられているのです。彼ら宇宙人は我々が彼らの道をたどるように、そして貧弱な経済力で地球を破壊しないで、この文明を救えと警告を発するためのみ来ていているのです。私たちは他の太陽系があるかもしれない事柄を知っています。私たちは我々の太陽系のみとコンタクトしています。まだ数百万の太陽系が宇宙に存在しています。もし我々が我々の太陽系から進出できるようになれば、他の太陽系からこちらの太陽系へやつて来て、どれかの惑星に到達し、トラブルを起こすでしょう。彼らは必ずしも“天使”ではありません。地球人のすべてが天使ではないのと同様です。

第二に、人間が宇宙空間に深く進出すればするほど、そして止まることを知らなければ、我々自身の太陽系を探検するインチ前進することに、そのため、そして何かを調査するために新しい装置や新しい物を必要とするでしょう。こうした装置のすべては私たちや子供たちの手で作れるでしょう。そのため人々は仕事をありつけるでしょう。私がまだ生き続けるとすれば、この地球で宇宙開発のために労働の手不足になるような時代が来る 것을私は期待します。これは壮大な宇宙開発計画の美しさとも言えます。

宇宙空間へ進出することの意義

一惑星として、この地球は宇宙空間で一体何なのでしょう？月は一衛星として宇宙空間のどこに存在するのでしょうか？もし私たちが月の上に立つて地球を振り返るならば、地球から月の動きを見るのは同様に、地球が宇宙空間を動いているのが見えるでしょう。もし我々が今までに聞かされてきたような考え方に基づいて状況を分析しようとすれば、宇宙には地球と同様に悪魔と天使が同居していることになります。ところが多くの人は宇宙人のすべてを“聖人”に仕立て上げようとします。そんなことのないように宇宙人は来たのではありません。そして現在やっているように私たちが宇宙へ進出することによつて、二つの面

に奉仕できます。前方に展開している未来に向かって文明が前進を続けるならば、現在の文明を救つて美しい未来を持つようになるか、または文明を破壊するかです。

宇宙空間に位置を変えることによつて人間は学ぶことになり、学んだ人は他人を殺したり他人の生命を欲しがつたりしなくなります。これが一つです。そして人間は私たちが“惑星地球”と呼んでいる小さな石ころ、砂の一粒ばかりでなく創造主自身の創造物についても何かを学ぶことになるでしょう。

しかし宇宙人が来る別な理由もあります。我々が核戦争を始めるならば——という問題です。この世界には多くの過失がありますが、ここで一つだけ話します。これはよく知られている聖アンデ

核爆発も彼らが来る理由

私は宇宙人のすべてを“聖人”に仕立て上げようとします。そんなことのないように宇宙人は来たのではありません。そして現在やっているように私たちが宇宙へ進出することによつて、二つの面

レの過失です（訳注）アンデレは十二使徒の一人。ペテロの弟。ギリシャで殉教したといわれるこの聖アンデレの過失とは何を意味するか不明）。もし戦争が始まれば一日で一千発以上の爆弾が敵に落とされるでしょう。一千発以下では戦争失に対比して一千発の核爆弾を落とすと地球は真っぷたつに裂けるでしょう。もう地球は存在しないで自滅するでしょう。これは太陽系にも影響を及ぼすでしょう。太陽系として知られている我々の惑星系のみならず、あらゆる太陽系は完全なバランスを保っています。だからそれはうまく運行しているのです。もしこれらの小石（惑星群）の一つを軌道から叩き出したとすれば、アンバランスな状態となり、それは他の惑星群も粉々になることを意味します。これが最重要です。これが核爆弾が落とされた頃に宇宙人が来た理由です。核爆弾が開発された頃に——。彼らが戦争を中止させると思われる唯一の時は（ただし彼らはすでに多くの戦争を中止させたのですが、ここで言う戦争は最後の大戦争を意味します）、最後の戦争になりそうな時です。もしあなた方がナイフまたはありふれた武器を持つて、街頭に出てケンカをされてしまふでしよう。人々は自身の意志をケンカする本人に押しつけないでしよう。しかしこの地球に危険が生じているとすれば、警戒を要します！なぜなら、この地球が破壊されることは彼らの惑星も破壊されることになるからです。あ

る場所からつづかい棒を打ちはずしたら別な場所のバランスがくずれます。

彼らは強要しない

以上が、宇宙人が地球へやつて来る真なた方が、他人にお聞きになるように、あなた方は、私の書物「宇宙船の内部」に述べられた哲学をご存知でしょう。あなたも彼らに尋ねました。「あなたがたは何を信ずるのですか？どんな生活をしているのですか？」などです。そこで彼らは私に話してくれました。それで私はいわば私たちの生き方、すなわち私たちの生活哲学と、彼らの言葉とを比較しました。しかし彼らは彼らの生き方を私たちが受け入れねばならないのだと言いました。これが最初に話した予言を、それは実現させるかもしません。しかしこのことは十日で起るか、十分間後か、または一千万年後に起るか、だれにもわかりません。したがって、それについて恐れる必要はありません。それで彼らが（宇宙人が）私に語ったところによりますと、もし危険が生じるならば、私に知らせるということです。彼らは自分たちの各種の装置を注意深く注視しているのを認めているのだとも言いませんでした。

ただ彼らの哲学を私たちに残しただけでも、彼らは私たちに何も押しつけようとはしませんでした。彼らは彼らの生き方を採用し、地球上の私たちの運命を改善すればよいのです。

別な惑星系を発見！

その結果、彼らは別な太陽系内に「新しい天と新しい地（惑星）」を見つけました。これは我々の太陽系から遠くはありません。彼らはすでにその太陽系へ沢山の人々、すなわち志願者を輸送していました。生き残ろうとする、もちろん最優秀な人々で、最低の人たちではありません。生き残ろうとする限り、人間の最高の発達段階から始めようとしているのです。彼らはこの地球からも人々をそこへ送っています。蒸発してしまった人々のすべてが金星や火星へ行つたとは限りません。別な太陽系へ

地球人は注目される価値はない

彼らはいつも宇宙空間にいます。私たち地球人を注目しているではありません

う？彼らは太陽系全体を見つめています。私たち地球人は注視される

ほどの何を持っているというのではありません

う？彼らはいつも宇宙空間にいます。私たち地球人を注目しているのではありません

正しい印象を得ること

以上が、今伝えられている情報です。

これはテレビやラジオで伝えられたのではありません。自分や世界のエゴを満足させんがために、心中の印象を曲解しないほどの優秀な人を——私も含めて——私は知りません（訳注）だれでも自分のエゴを満足させようとして心中の印象をゆがめているの意）。何かの真実を把握する唯一の方法は、本人自身にコ

とすれば、地球の動きが太陽の動きのように見えます。そうですね、彼ら宇宙人は宇宙空間にいて、宇宙船に乗り、地球はばかりではなく、太陽系内に発生する現象を見るために、彼らの惑星群をも見つめているのです。これが彼らが見つめている目標なのです。

す。二年前、または二年少々前、天文学者は太陽の極が変化したと伝えました。これは大変化です。それ以来、この変化は続いています。彼らの技術に等しくなります。百年を要するかもしれないような地球人が現在持っている物よりもはるかにすぐれた（宇宙人の）装置は、恐怖すべき極端な変化を示しています。ですから、私が最初に話した予言を、それは実現させるかもしません。しかしこのことは十日で起るか、十分間後か、または一千万年後に起るか、だれにもわかりません。したがって、それについて恐れる必要はありません。それで彼らが（宇宙人が）私に語ったところによりますと、もし危険が生じるならば、私に知らせるということです。彼らは自分たちの各種の装置を注意深く注視しているのです。

その結果、彼らは別な太陽系内に「新しい天と新しい地（惑星）」を見つけました。これは我々の太陽系から遠くはありません。彼らはすでにその太陽系へ沢山の人々、すなわち志願者を輸送していました。生き残ろうとする、もちろん最優秀な人々で、最低の人たちではありません。生き残ろうとする限り、人間の最高の発達段階から始めようとしているのです。彼らはこの地球からも人々をそこへ送っています。蒸発してしまった人々のすべてが金星や火星へ行つたとは限りません。別な太陽系へ

とすれば、地球の動きが太陽の動きのように見えます。そうですね、彼ら宇宙人は宇宙空間にいて、宇宙船に乗り、地球はばかりではなく、太陽系内に発生する現象を見るために、彼らの惑星群をも見つめているのです。これが彼らが見つめている目標なのです。

太陽系は変化する

今や私たちは、わずか三年前の別な状態に行っています。私たちの探知の結果

ついに我々の太陽系は変化しつつあると

いうことがわかりました。この太陽系で

はあらゆる惑星が生命を持っているので

あなた方が地球から離れて月面上から見る

ンタクトすることです。あなた方にもそれがやれるのです。それで、私は活動を地道にやってゆくことができたことに対して当局に感謝してよいと思います。そして、いわゆる「ラザーズ」を裏切りませんでした。彼らに従ったのです。少しばかり過失をおかしましたが、それだけです。その結果、私は彼らとコンタクトしているのです。これはテレビによるのではありません。ただし内奥の「印象」には従っています。しかし百パーセント印象に頼っているわけではありません。印象を受けた後、それに従って行動に移る前に、確信がもてない場合は、宇宙人に正しいかどうかを確認してもらう必要があります。だからそのような、だれから来るメッセージの印象にだまされてしまません。今までにこうしたメッセージを受けたという例がずいぶん沢山あり、不幸にして多数の家庭が理由もなく破壊されました、そして多くの人が狂信のために真実から分離されていました。全世界がこのことを知らねばならないときに——。特定の一グループの人々ばかりではなく、全世界の人が知らねばならないのです。

地球には三十億の人が住んでいます。いわゆる「選ばれたグループ」ばかりではなく、カトリック、プロテスチント、ユダヤ、その他あらゆる人が、真理を知る権利をもっています。この選ばれたグループといつても、自分たちの目的を遂行しない限り、実際に宇宙の原理や創造主そのものにさえもそむくことになるのです。

彼らはすでに移動している

さて、みなさん。これはあなた方がお気づきになる以上に、はるかに重要です。これをもてあそんではなりません。あなた方が創造主に挑戦するとしても、あまり大きく考えすぎているのではない

かと思います。私たちの太陽系がバランスを失って、危険が生じていることを彼ら宇宙人が発見している事実を考えてごらん下さい。彼ら惑星人は同胞たちを大規模に新しい太陽系へ移動させ始めようとしているのです！彼らは地球人を助けないでしょ。彼らは多数の宇宙船を持っていますが、そのいずれも同胞を新しい太陽系へ運ぶのに必要とするでしょう。それが終了したあと、もし時間の余裕があれば、彼らは地球へやって来て、人種や信念の差別なしにあらゆる人を連れてい行くかもしれません。地球人が人間

だから宇宙開発計画は二通りに役立ちます。まず第一に、人々をこの仕事に従事させて戦争を回避できます。第二に、太陽系に危険が生じた場合、その宇宙船を利用して同胞を輸送できます。この計画は非常に建設的なもので、人間が二本のツノを持つことが持つまいが（訳注）魔であるうがあるまいが（訳注）悪魔であるうがあるまいが（訳注）天使の意）、私は気にしません。時が来れば、差別はなくなるでしょ。創造物のなかに差別を作り出した神または創造主といふものを私は聞いたことがありません。

宇宙開発計画を！

だから宇宙開発計画は二通りに役立ちます。まず第一に、人々をこの仕事に従事させて戦争を回避できます。第二に、太陽系に危険が生じた場合、その宇宙船を利用して同胞を輸送できます。この計画は非常に建設的なもので、人間が二本のツノを持つことが持つまいが（訳注）魔であるうがあるまいが（訳注）悪魔であるうがあるまいが（訳注）天使の意）、私は気にしません。時が来れば、差別はなくなるでしょ。創造物のなかに差別を作り出した神または創造主といふものを私は聞いたことがありません。彼らはそれをも安全な場所へ連れて行くかもしれません。しかし、これは保証できないことです。私たちに今与えられている最上の保証は、地球自身で宇宙船を建造することです。戦争目的のために作ったにしても、今は戦争がありませんので、大気圏外へ人工衛星を打ち上げるのに利用しています。だからそうした宇宙開発技術は両道に応用できます。私がこうした講演のために沿岸から沿岸へ飛ぶ旅客機さえも、いつか戦争ともなれば兵員輸送に切り変えられま

す。一度、旅客機を作れば、そのように

地球での生き方を学ぶこと

一人の青年が私に語りました。

「私は地球を出て金星または他の惑星へ行きたい」と。そうですね。そう言う人が沢山います。しかし地球に住めないと

使えるのです。したがって我々にはそういうすれば必要な時が来たとき、宇宙人は地球へ（知らせに）来るでしょう。さもなければ彼らは来ないでしょうし、相手は地球人を観察するひまもなく、救出する宇宙船もないでしょう。これは全くの常識です。

お許し下さい。あなた方は私の話しぶりを感じるとおりに話しているのです（訳注）

||この部分はアダムスキーが非常な早口で話しているので、よく聞きとれないと思って詫びたものと思われる）。今こそ私たちどこかで竜巻か雷光で奮い立たされ、眼覚めて常識に返るべき時です。人はあまりに長い間、眠っていたのです。（ここでアダムスキーは一段と声を張り上げてテープルを叩きながら力説する）地球上で隣人と共に暮らせない人が他の惑星で暮らせるわけがありません！もし私が一惑星の長であったとすれば、この地球で暮らせないという人をそこへ行かせると思いますか？ノウ。まずこの地球で同胞と共に生きることを学びなさい。人間対人間として生きることを学びなさい。みんながそこで生きているからです。あなた方や同胞や周囲のあらゆる物が、あらゆる創造物が、聖なる存在であることを知りなさい。なぜなら、創造主自身がそれらを創造したのであって、自分以外の他の物を創造するはずがないからです（訳注）万物は創造主そのものの現れという意味）。私たちが自分のエゴでもって創造物から作り出す物は、創造主の過失ではありません。私たちが

フタ代わりにして覆っていたゴミを取り除きさえすれば、まだそこには真自我が存在するのです。

万物について感覚的になろう

私たちが呼吸をしている空気は創造主

私たちがこれまでに否定されてきた事
感覚器官をコントロールすること

の現れです。スタンダード石油会社または他の会社が空気を売っているのではありません。それなくして生きてはいられない空気は、どこへ行つても無料です。後になってアダムと呼ばれた像、すなわち粘土の像に最初の息が吹き込まれたときから無料だったのです。それは創造主の口から出て、その像の鼻口へ吹き込まれました。それは今も人間の鼻口へ吹き込まれています。次のような言葉が述べられているのを、あなた方はどう思しますか。

「地によつて誓うな。それは父の踏み台であるから。そして天によつて誓うな」天空とは父の王座であるからです。あなた方が今住んでいる場所（地球）の中に、これ以上聖なる場所があるでしょうか？これ以上聖なる場所は他の惑星にないのです！ですから、あなた方が人間の住むように意図されたように生きることができないならば、他の如何なる場所（惑星）でも生きられないでしょう。

眼覚めようではありませんか。そして創造主が人間に（そつあるべきように）意図された、そのような人間に少なくともなるうではありませんか！万物について感覚的になろうではありませんか！（訳注）このあたりでアダムスキーは非常な早口で絶叫するような調子で語っています）

の現れです。イエスでさえも中庸の中にこそあらゆる物事を応用できると言っています。人間の心が実際には何にするかを示しますが——人間は他の男または女をだましから無料だつたのです。それは創造主の口から出て、その像の鼻口へ吹き込まれました。それは今も人間の鼻口へ吹き込まれています。次のような言葉が述べられています。あなた方は自分が自分の心に何をするかを示しますが——人間は他の男または女をだますか？——人間は他の男または女をだますかもしれません、実際はいつも自分自身をだましているのです。

ここで一つの例をあげましょう。これは私たちが現在よりももう少し次元が高くなつて、すでに次元の高い人々と匹敵しようとするのならば、学ばねばならないものです。あなた方が、或る花を初めて見るとします。この新しい創造物は大変美しいので、今まで地上で見た、または生長したすべての花よりも美しいとします。あなたがたの眼すなわちセンスマインド、すなわち視覚は、それを崇拜して、その前でひざまずくほどになるでしょう。それは大変豪華なのです。それが人間の住むように意図されたように生きることができないならば、他の如何なる場所（惑星）でも生きられないでしょう。

星ではこの点が違うのです。あちらではだまされではないと思つてゐるでしょうが——。人間は他の男または女をだますかもしれません、実際はいつも自分自身をだましているのです。

一体、何をやつているのだ！

私たち地球人は何をやつているでしょうか？ 私たちは自分と同じような人が語る言葉を聞き、それから家へ帰つて、あとは何もしません。十八年間もミステリー（UFO問題）が続いてきたのに、進歩的な、何かをやつている人々は、それについて何も知らず、曲解し、問題を日だれもその問題を聞こうともせず、もうニオイを嗅ごうともしません。それはこんなふうにして本人の心を作り上げている感覚器官の一つである視覚がこの花を賞揚するのです。すると本人の嗅覚が言います。「わたしはそれを嗅いでみたいたい」。そこでそれを嗅ぐと、スカンクのような匂がします（訳注）スカンクという動物は防衛手段として非常な悪臭を放つ）。一つの感覚器官はそれを好まないという理由でそれを破壊したがり、他方はそれを賞美したがります。それが人間です。これらの感覚器官を全然コントロールしようとして、互いにのさばらせながらこの世で生きているのが人間で

す。これではどうして私たちは肉体レベルで互いに尊敬し合えるでしょう。各感覚器官は互いに信頼し合つていません。人間も互いに信頼し合いません。別な惑星ではこの点が違うのです。あちらではまず各感覚器官がコントロールされ、次に肉体の手足のコントロールが自動的に行われました。

ソロドファーに送りました。それが空輸される一日前に、十五機のUFOが白昼ワシントン記念碑の周囲に目撃されました。そのフィルムがついにワシントン市でテレビで放映されたとき、その光景と同じようなフィルムがあつたことをだれも知らず、驚いたのです。ロドファー夫人の夫はワシントン・ストリート病院で三千人の人を使用しています。彼女は人々や私たちがそのフィルムをまず政府の役人たちに見せたがつてることを知つていました。それで政府関係者と接衝する必要がありました。

彼女が下院議長のジョン・マコーミックと会見したとき、マコーミックは「それを放映しなさい。我々はいつでも見るが、とにかく今放映しなさい」と言つたのです。白昼ワシントン記念碑のまわりで十五機のUFOを見た人々、すなわち政府関係者やエンジニアなどがスタジオへ招待されて、その映画を見たり意見を交換しました。ロドファー夫人がとつたそのときの録音テープがあります。

そして出席者たちは、記念碑のまわりで見たUFOはその映画に写されているUFOと同じものだと言つたのです。それは今夜お見せしましょう。

ワシントン市上空にはもつと多くのUFOが出現するでしょうし、今年はますますふえるでしょう。私たちすべてが出現を願つてゐるUFOは、私たちが一言終わるまでには出現するでしょう。私もロドファー夫人も大統領に手紙を出しました。大統領が私たちの手紙を受け取つたことは、わかっています。

私は二月二十四日にカリフォルニアを出発して同じ日にワシントンへ着いたのですが——元のハミリフィルムからコピーした十六ミリ・カラーフィルムをマディリ

私は団体を組織していません。私は団体の代表者ではありません。それは問題ではありません。私は個人活動家です。

私の話を聞きたい人がいれば、どこへでも行ってだれとでも話します。団体といふものはときどきゆがめられます。最初はうまく出発しますが、ついには自分たちの促進活動のために堕落するのです。

それで私たちは活動に出かけて、映画フィルムを上映しましたが、これは政府関係機関のある一部門に多くの騒動を起しました。それは空軍です。宇宙問題委員会も映画を見たがりましたので、私が到着する前にマデリンがそれを見せました。それ以来、要求にこたえて何度も上映されています。私は月曜日にワシントンへ引き返します。言い換えれば、地球には宇宙人が来ているという事実を一言いう必要があります。なぜなら、私たちがすでに知っている事柄の中に、多くの情報があるからで、私は、戦争になつた場合には防衛に応用できるような情報を各種の政府関係機関に伝えてきました。防衛以外の他の面で何があるかは私たちにはわかりません。したがって、私たちは世界が平和になつたと確信できるまでは、その情報が外部に洩れないことを望んでいます。宇宙人さえ、そんな話し方はしないでしょう。

今年私たちは、今そこに人々の否定できない何かがあるという事実を証明するフィルムを持って活動しています。そして現時点では洩らすわけにはゆかない他の方法も考えていますが、私たちはすでに活動に入っています。結局、もっと多く

の活動が行われるでしょう。今、次のようないい處であります。あるいは大きなスケールで物事を首尾よくやりとげる人が七人ばかりいました。この七人のいずれも団体には加わらず、真理のために活動しています。

今年末までには何かがあるでしょうし、次の二年間には確実にあるでしょう。ある情報が与えられるでしょう。これはでたらめな話ではありません。

六百万ないし一千万マイル彼方の眼に見えない装置を修理することもできるのであります。もしマルコニーが尻込みしていたら、そのような業績をあげることは不可能だたでしよう。なぜなら、人は彼を狂人、夢想家と呼び、「不可能だ」と言つていたからです。彼がそうだったとしたら、私たちは今日持つているような通信器具類を持たなかつたでしよう。

月面のビルディング

この月の画面の放映が行われたとき、大変興味深いものなので、みなさんも、それをごらんになったと思います。テレビ画面の左手の下の所にアルフォンスス盤を信じない人もいるでしょう。そうすると私たちは何を追求しているのでしょうか。存在しない物を追求しているのでしょうか。私たち一九四七年以來、この追求をやつてきました。そして十数回以上UFOを追跡するための小旅行をやらなかつた日は一日たりともありません。UFOはソ連のものではありません。ソ連の人々も同じ事をやつています。あなた方は死ぬ前に眼覚めなさい。自分が死んでいることさえ気つかなかったのです。人々はマルコニーをさえ信じなかつたのです。彼が無線通信の可能性を予言したとき、多数の人は信じませんでした。しかし今日私たちは彼が発見した物によつて恩恵を蒙っています。私たちはラジオ、テレビなどを持ち、電子装置を他の惑星へ送っています。今は地球から

す。しかし出演者たちはアルフォンススの報告で、プリンクリーが言ったことです。最初私は聞いていたかったので、彼がだれの言葉を引用したのかは知りませんが、十トンのチリが月面から舞い上がりつづいています。そしてその内の五トンが地球へ降りそいでいるといふことです。ここで私が分析してみます。あなた方には、意味のないことがあります。あなたには、意味のないかもしれません。第一、あなたの方のなかには、円盤を信じない人もいるでしょう。そうするとあなた方はそこを見上げたでしょう（訳注：月面ケットで撮影した月面写真のテレビ放映を意味するらしい）。私も見ていましたが、右手の上下を見ていました。そして全体を見ました。アルフォンススだけを見たのではあります。すると上隅のクレーター

「クライイン」と他のクレーターとの間に一つのビルディングがこちらを向いていました。メクラでも見のがさないでしよう。私は昨日テレビでそのことを聞いて質問されたばかりです。それについて質問されたばかりです。それを見た人は、どんなに大きかつたかがわかるはずです。それはおそらく長さ二三マイルの宇宙船、少なくとも六隻の

大母船を収容できる格納庫です！しかしみんなはその方に指を向けていませんでした。自分でごらんになればわかります。四年前に原子力委員会はあからさまな声明を出して、それがあらゆる新聞に掲載されました。岩石、隕石等の原子の構造からみて、それらは太陽系から生じたにちがいないと申します。この太陽系の全惑星はかつてメンドリの下のヒナ鳥みたいに創造されたとか、そして太陽系の年齢は四十億ないし六十億年のあいだであるといわれています。百万年や十億年ではあります。ここで月を考えてみましょう。



●パロマー・ガーデンズのアダムスキー・グループ

右より2人目からルーシー・マクギニス、アダムスキー夫人メリー、アリス・ウエルズ、
アダムスキー、マデリン・ロドファー、シャーロット・プロップ。1955年頃と思われる。



シンボルマークの意義

父性原理と母性原理

このシンボルマークを受け入れて使用する人は、生命に関する宇宙的原理を理解して、「宇宙という家族」の息子または娘として生きようという自己のまじめな意図を、自身の地球的自我に比べて、意識的に認めることになり、宇宙のあらゆる創造物がそうであるように、自分を一幼児として生み出した「宇宙の父母性原理」を知ることになります。

円の中にある二つのシンボルは「宇宙の本性」をあらわしており、地球にせよ他の世界にせよ意識的に注意深い人にはそのことがわかります。左側のシンボルは「創造的父性原理」をあらわし、右側のシンボルは「母性原理」をあらわします。各シンボルが描かれた線を見ますとそれらの全包容的な意義について次第に多くの啓示が湧き起ころてくるでしょう。

「英知」すなわち「父性」創造原理と「物質」の受容的「母性」原理は、万物に現れています。万物は呼吸をしているはずです。岩石や砂粒にしてもそうでしょう。そしてその息は「宇宙の父なる英知」から受けているのです。したがって生命あるもののすべては相互関係にあることがわかるはずです。私たちの「無限の遺産」を豊かに表現することは、あらゆる男女や子供、あらゆる生きものの「本来の権利」です。これは太陽系の姉妹惑星群から来る訪問者たちは、この本来の権利を絶えず意識して

生きようとしているのです。この人々はあなた方が使用するこのシンボルに気付くでしょう。またあなた方が自分の「宇宙の家」についてもつと理解しようとする原因をほとんど見てきませんでした。マタイ十六・十五・十七にはイエスが弟子たちに尋ねています。

「あなた方は私をだれだと言いますか」シモン・ペテロが答えました。「あなたは『生ける神』の子、キリストです」といふとイエスは彼に言いました。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いだ。このことをあなたに気づかせたのは肉体（外形）ではなく、天にいる私の父なり味わつたり嘆いだりできる結果の（現象の）世界の中に閉じ込め続けようとしています。したがって私たちは絶えず警戒し、常に肉体の心にむかって、その（心の）宇宙的な一体性と万物への依存性とに気づくように呼びかけねばなりません。それによって等しく万物に向けられる関心が習慣となってきます。この態度は、私たちがあらわそうとしてぼう大時間と労力を浪費している奢り、非難、貪欲、利己主義などを、いつかなくすことになるでしょう。

ここで「天」というのは「宇宙」または「因」の「英知」を意味します。言い替へば、ペテロは「因」すなわち「宇宙の父」をあらわしている、イエスという名の、結果としての外形を見て、それをキリスト（救世主）と呼んだのです。また、ヨハネ十四・八—十三を読むならば、金星やその他の惑星の人々が、このような生き方によつて進化したことがわかります。

あなた方が自分の「宇宙的な生得権」の生きた実例になるならば、それは人類に対する奉仕となります。そうすると他の人々もあなた方が持つているもの（宇宙的な生得権）を知りたくなり、やがてこれは広くこの世の知識となるでしょう。私たちや後の世代も私たちの努力の結晶を愉しむことになり、地球の人々は本来意図された生活をすこすくなるでしょう。

三番目に、万物を或る因の結果とみなしなさい。結果と因とを同時に見るようになし、これまでのよう分離してはなりません。結果というものはそれを裏付け

ジュネーヴはスイス南西部のレマン湖畔に位置する美しい都市で、人口二十一万、

スイス第二の都市である。シーザーがガリア遠征の途中ここを通過した前一世紀には、すでにこの地がガリア人の町としてかなり繁栄していたことが『ガリア戦記』に述べてあるという。十七世紀に描かれたジュネーヴの銅板画を見ると、相

当な都市であったことがわかる。

ルウに会う

私たちがパリから国際列車で中央駅に着いたのは一九七六年九月二十四日の午後二時半であった。宿舎のホテル・メデイタラーネは駅前なので、徒歩でホテル

へ行き、自室へ入ってからしばらく荷物の整理をして入浴をすませ、一服やりながら休息していた。日本からルウに連絡したときは当日午後五時から六時までの間にホテルへ来るようとに伝えたのだが、到着後は自由時間になることをロンドンで知った私は急拵航空便でルウ宛にハガキを出し、もつと早く来るようにもしていられなかつた。

そろそろ仕度にとりかかろうかと考えていると室内の電話が鳴った。受話器を取るとルウの声がカン高く響いた。今ホテルへ来たという。すぐ降りるからロビーラで待っていてくれと答えて、あわてて身仕度をととのえたあとエレベーターに乗り込んだ。

ロビーに出て向こうを見ると、入口の近くのソファに一人の老婦人がこちらを見つめている。写真で見覚えのあるルウだ！ 笑いながら手を振ると、ルウも立ち上がり微笑した。近寄つて、「ルウ・チン・シユターカ？」と呼びかけると、

彼女も「クボタ！」と言いながら顔を寄せせる。その眼は嬉し涙に輝いていた。そ

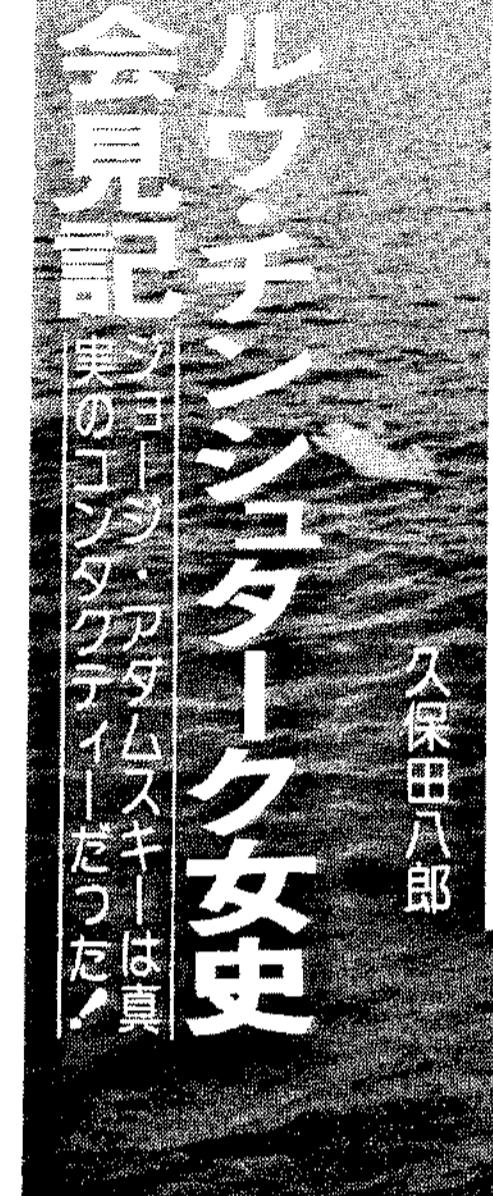
うだらう。多年、アダムスキーワーのコウワーカーとして文通し、情報交換を続けながらどうしても会えなかつたのに今ついに会見が実現したのだ。握手してからまたソファに座つた二人は暫時雑談を続けた。彼女の友人でジュネーヴに住む実業家のピリンジャックという人がまもなく来るので紹介することになつていると言

アダムスキーワーを熱心に支持しているとのことである。

まもなくピリンジャック氏が来た。小男だが柔軟な顔付きの紳士である。紹介がすむと、三人でまずホテル内のレストランへ入つた。一角のテーブルを囲んで窓際にルウとピリンジャック氏が座り、反対側に私が席をとる。ジースを飲みながら話し続けた。ルウは七十一歳であることは後にわかつたが、小柄なせいか若く見え、歩く態度は意外に活発で、声にも少しカン高い陽気な響きがある。日本を出る前に塩谷勉農博から「五カ国語ができるもの静かな非常に知的な婦人だ」と伝えられた私は、淑やかな上品な物腰の老婦人のイメージを描いていたが、これは少々違つていた。もつとも塩谷博士がお会いになつたのは十五年前のこと、現在の彼女とは異なつていたのだろう。

話題は当然のことながらUFO問題、特にアダムスキーワーが主題となる。彼女はアダムスキーワーがローマのバチカン宮殿へ行つたときのガイド役を勤めた重要人物なので、そのことを聞きたくて気があせつたけれども、その前に彼女自身の興味深い体験を次のように語ってくれた。ドイツ語訛りの英語が彼女の口から勢いよく流れ出る。私は小型録音機のマイクを彼女の方へ近づけた。

金星人ととのコンタクト？



ルウ・チン・シユターカ女史

ジョン・アダムスキーワーは眞

久保田八郎

ジユネーヴ、レマン湖畔の美しき夜の語らい

「あれは一九六一年の六月三十日のことでした。夕方、私は劇場へ行きたいと思

つっていました。土曜日です。しかし朝、私が起きたとき、外がひどく暑かったので、行かないことにしました。その古い劇場には冷房装置がないので、暑さを恐れたからです。だから行かないことにしました。しかし町へ出かけてみて、至る所にアメリカのある有名な芝居の広告が出ていたのを見たんです。でもあまりに暑かったので、まだ行くことにしませんでした。私は父と共に夕食をとりに町へ出たんです。すると突然、父が言いました。

『ね、私たちは劇場の切符をまだ沢山持っているんだが、シーランはもう終わったんだよ。切符が沢山残ったのは残念だね』。それで私は言つたんです。

『じゃ、一枚頂戴。今夜行くかもしれないわ』

父は切符をくれて、言いました。

『行つちやいけないよ。暑すぎるんだから――』

『でも見たいわ』

それから私は街路を歩いて、行かないことにしました。その日はまるでオーブンの中に入るみたいで、その年で最高に暑い日でした。だから行かないことにしました。劇場とは反対の方向へ歩いたんですけど、突然、くるりと向きを変えました。それが私の体の向きを変えました。だつて急に私は別な方向へ歩き始めました。すぐ近くの劇場の方へ向へです。ホールへ入つてみると、『満員』という掲示がありました。それで思つたんです。『これで、心のモヤモヤが晴れた』と。

しかしそのとき、切符売場にいた男の人が合図をして言いました。

『いらっしゃい。何枚ご入用ですか？』
『一人分です』
『バルコニーの所に丁度一人分の席があります。いちばん遠い位置です』

『いいわ、それにするわ』と私は言いました。そこは階下よりも空気が多いからです。私は劇場へ入りましたが、おそろしく暑いんです。芝居をあまり見ませんでしたが、幕合いになったとき廊下へ出て、ジュースを飲みに喫茶室へ行つたんです。しかし飲めそうにもありません。みんなが飲みたがっているんです。それで、喫茶室から遠く離れた隅へ行つて、タバコを吸つていました。

すると突然、最も離れているドアから一人の男が出て来て、あたりを見回しながら、だれかを探しているんです。生き生きとした顔付きをして、疲れた様子はありません。だれもが暑さでまといつているのにその人はあたりを見回しているんです。白いオーブンカラーでした。これは一九六一年当時の劇場内にしては異常にいるみたいで、その年で最高に暑い日でした。だから行かないことにしました。だつて急に私は別な方向へ歩き始めました。すぐ近くの劇場の方へ向へです。ホールへ入つてみると、『満員』という掲示がありました。それで思つたんです。『これで、心のモヤモヤが晴れた』と。

いるのですから、私も微笑し返さずにはいられませんでした。それで驚きました。その人はますます近づいて来て『ああ、私が探していたのはあなたですよ』

とでも言うように合図をするんです。突然、非常に強烈な想念が起こりました。『あなたは金星人ですか、それともしたが、幕合いになったとき廊下へ出て、ジユースを飲みに喫茶室へ行つたんです。しかし飲めそうにもありません。みんなが飲みたがっているんです。それで、喫茶室から遠く離れた隅へ行つて、タバコを吸つていました。

私は方言でそのように心で思つたんでありますか？』

私は方言でそのように心で思つたんですね』と言つような表情を浮かべました。そしてひどく驚いたことに、私は動けなかつたんです。

すると相手は隣のドアから出て行きました。私も相手のあとからついて行きました。その人が一人の女性と歩いていました。それが一人の女性と歩いていた黒髪の女で、彼女はサンダルが脱げそ

うになつたため、彼が助けてそれをはかりました。その人が私を見たとき、私はおそらく金星から来たと思うからです。その土地に住んでいるかどうかは知りません』

しかし私が外へ出たとき、彼は突然く

るりと振り向いて全く別な表情で私を見

るんです。微笑は消えて、『話などはありませんよ』と言いたげな顔付きです。

それでこの男の人は金星人だという証拠

になりました。だつて私の想念に応える

人は他にいませんもの。この世界のテレ

バチカン事件の話が出るのかと思つて

いたら全然違うので、私は少々焦燥を感じた。なにせ時間の制限があるのだ。

ここで写真を撮ることにした。持つて

きたカメラでまずルウとビリンジャック氏を並べて撮影する。次に私とルウが並んだところをビ氏に撮つてもらう。和気

あいあいたる雰囲気だが、店内はかなり騒がしく、日も傾いてきたので、そろそろ別なレストランに場所を変えようではないでしょうか。これが私の一つの体験

です。私のテストの結果は、彼が応えた

ことです。それ以外には何もありま

せんでした』

『そうよ。私が以前ジヨージ（アダムスキー）と話し合つたことを知っていますか。私は言つたんです。『私は全然テレビで、私は言つたんです。『私は全然テレビ

バッシュではありません』と。

『そうだね。あなたはそれを身につける

ことができるだろう。まずイメージを描いて、それからテニスのボールみたいにその想念を放てばいいんだ。短時間の想像でいい。そしてテニスのボールみたいにそれを放つんだ』

このアイデアは当時、私が本能的に身につけていたものです。ですからそれを適当に応用していました。それで私にとって、それはジヨージの言つた言葉のすばらしい裏付けとなりました。あの男の人はおそらく金星から来たと思うからです。その土地に住んでいるかどうかは知りません』

バチカン事件の話が出るのかと思つていたら全然違うので、私は少々焦燥を感じた。なにせ時間の制限があるのだ。

ここで写真を撮ることにした。持つてきたカメラでまずルウとビリンジャック氏を並べて撮影する。次に私とルウが並んだところをビ氏に撮つてもらう。和気

あいあいたる雰囲気だが、店内はかなり騒がしく、日も傾いてきたので、そろそろ別なレストランに場所を変えようではないでしょうか。これが私の一つの体験

です。私のテストの結果は、彼が応えた

ことです。それ以外には何もありま

せんでした』

『ああ、そこにいたのですか！』と言つて

いるかのよう、私に合図をするんです

です。私のテストの結果は、彼が応えた

ことです。それ以外には何もありま

せんでした』

『メンタル・テレビペシーですか？』と私

は（久保田は）尋ねた。

この土産というのは東京駅大丸で買った会津塗りのオルゴールと、真珠のペン



●筆者とルウ・チンシュターク

●ロジェール・ピリンジャック氏

ダント、それに暗い室内に置くと光って見える造花の鉢植えである。オルゴールから流れ出るメロディーについてルウが尋ねるので、これは日本の伝統的な有名な民謡で桜の花を歌った歌曲だと説明すると、たいそう美しい旋律だと言つて感歎する。夜光性造花についてピリンジャック氏はこんな物を見るのは初めてだと驚いている。この品は出発前日にS駅構内の店で買った物だが、外国にザラにあらような品では面白くないと思い、そのことを尋ねてみると、まだ日本だけの製品で海外はない筈だと娘さんが答えた。明日ヨーロッパへ土産を持って行くのだと話すと、娘さんは急に眼を輝かせて、それならきっと喜ばれるだろうと言つた。その後半信半疑のままヨーロッパ各国の店をのぞいて見ると、その種の製品が見当たらなかつたところから、やはり本当なのだろう。千円足らずの安物だが、持つて行つてよかつたと思つた。

ダント、それに暗い室内に置くと光って見える造花の鉢植えである。オルゴール

から流れ出るメロディーについてルウが尋ねるので、これは日本の伝統的な有名な民謡で桜の花を歌った歌曲だと説明すると、たいそう美しい旋律だと言つて感歎する。夜光性造花についてピリンジャック氏はこんな物を見るのは初めてだと驚いている。この品は出発前日にS駅構内の店で買った物だが、外国にザラにあらような品では面白くないと思い、その

ことを尋ねてみると、まだ日本だけの製品で海外はない筈だと娘さんが答えた。明日ヨーロッパへ土産を持って行くのだと話すと、娘さんは急に眼を輝かせて、それならきっと喜ばれるだろうと言つた。その後半信半疑のままヨーロッパ各国の店をのぞいて見ると、その種の製品が見当たらなかつたところから、やはり本当なのだろう。千円足らずの安物だが、持つて行つてよかつたと思つた。

私は例のバチカン事件について知りたかった。大要はすでにわかつているが、眼前にいるルウは宮殿入口までアダムスキーに同行して、入口に現れた謎の人物を目撃した生き証人なのである。

ルウが来て、続いてピリンジャック氏が現れた。どこへ行きたいかとルウが聞くので、フランス料理店の静かな場所がよいと言うと、よしきたとばかりピ氏が日本製のトヨタだと自慢する自家用車を運転して数キロ離れた湖畔のこじんまりとした料理店へ案内した。地下に食堂があり、今、食堂は満席なのでしばらく一階のバーで待たなくてはならないという。



バチカン事件を語る

「バチカン事件について、あなたが知る限りのこと話をしてくださいませんか。あなたはバチカン宮殿ヘアダムスキードーと一緒に行つたんでしょう?」

「私は(バチカンの)聖ペテロ寺院へ行つたんです。……あの高い建物の前の……あれを見たことがありますか。その寺院の前側には高くて幅の広い階段があります。それで私たちは二~三段昇つて立ち止まり、周囲を見渡しました。バチカン宮殿の見学者用入口は右手にあります。そして宮殿に入るまでは、三名のイス人衛兵のいる所を通過しなければなりません。しかしジョージは左手を見て

フランス料理店での対話

ロビーで待っていると、約三十分後に

いました。そこには高い入口が開いたままになつており、その入口の奥に小さな入口のついた建物があつて、この入口の所に一人の男が立つていました。かなり遠くでしたが、その人が黒服を着ているのを見ました。しかし僧服ではなく、平服でした。そこで彼は赤、白、緑色の『何か』を持っていました。イタリア色です。その『何か』が金属か綿かはわからませんが、輝いていました。その人は外交官みたいに見えました。

アダムスキーが言うんです。『Oh, there he is!』（ああ、そこにあの人いる！）そしてアダムスキーは走つて行きました。その前に私たちは一時間ほどここで待つていていた約束がしてありました。そして彼は『十一時にここにいなさい』と言つていました。そのときはちょうど朝の十一時でした。そのうち彼は十二時頃にふたたび出て来ました。彼の顔は喜びに輝いていました。そして言いました。

『私は法王に会つた。ひざますいて、法王の手にキスをしたよ。私を祝福してくださいました！』

私はびっくりしました。だってジョージは教会といふものに決して入らないことにしていたんですから。彼は教会を恐れていました。彼にとつて好ましくないものが教会にあつたんです。

その夕方、一同で夕食会を開いたとき彼は小さなプラスチックのケースを開きました。その中にまた小さな箱があつてそれには彫刻文字があり、一部は英語で

一部は私に読めない文字で記してあります

した。彼はそれを開きましたが、そこには黄金の万国コインがありました。それはまだ銀行で使用されていないものであります。なぜならそれは領事館が公開する一日で月曜日に法王は亡くなられました。しかしジョージは言つていました。

『法王は死にかかつてはいない。食べる解できるんだ。答えることもできるし、それがども、他人の言うことは正確に理解できるんだ。答えることもできるし、バラ色の頬だ。瀕死の病人ではないよ』一方、私が土曜日にイタリア語の新聞を買ってみると、法王にとつてすてきな日だったと書いてあるんです。法王は訪問者（複数）の來訪を受けて、頬はバラ色だつたとありました』

ピリントンジャック氏が英語で質問する。

「ジョージは法王に文書か何かを持って行つたんですか？」

「メッセージですか」

「メッセージですか」

「メッセージですか」

「メッセージですか」

「二、三枚の文書を持って行つたんだと思つた！」

「私は全然見ませんでしたわ。手紙だったかも知れませんけど、わかりませんわ」「なるほど」

ここで私が尋ねた。

「彼は包み物を持っていたんですか」

「ちがうわ。それは彼のポケットに入つてしましました。小さいんです。包み物ではありません。だから面白い事に、彼は法王から二つのメッセージをもらつていま



●ヨハネ23世がアダム斯基に与えたという黄金のメダル。
上が表、下は裏。

した。これはフルシチヨフとケネディーに渡すものだったんですね」

「そうですか？ 渡しましたか？」とピ氏が眼を丸くして聞く。

「渡しましたわ。渡したと思います。しかし両方とも一年以内にやられました。だれがフルシチヨフをやつつけたのか、だれにもわかりません。だれも実際には彼を攻撃できなかつたはずです。そしてケネディーは暗殺されました。それは一九六三年の十月じゃなかつたから」

正確には十一月二十二日である。私はまたバチカン事件に話をもどした。

「入口の所に立つていた男はだれだつたのですか？」

「ジョージは『特殊な人』と言つていた

「アダム斯基はあなたに黄金のメダルを見せたそうですが、それは純金なのでですか？」

ルウが熱っぽく答える。

「ええ、私は手に取つてみました。あれは二十四金だと思います。私は金細工人

の娘でしたから、わかるんです。違います

わかります。私が十八金以上だわと言つたら、ジョージが微笑して、

『そう、これは二十四金だ』と言つていきました

「十八金以上ですか？」と私。

「そら、十八金以上よ。スイスでは貴金属は通常十八金で作られるんです。ヨーロッパは……」

「純金じゃないんですか？」とまた私が尋ねる。

「純金よ。十八金はコインや貴金属に用いられるけど、それは純金と言えるんです。二十四金となれば、純金のパーーセンテージは高くなるわ。でもドイツでは十四金で沢山の貴金属を作るけど、それはやはり純金と言えます。スイスでは十四金を嫌います。私たちは十八金しか使いません。二十四金で作られた物は特別な物です。貴金属はもう二十四金で作られませんが、コインはときどきそれで作られます」

ある噂を否定する

私は話題を変えた。

「アダムスキーは真実のコンタクティーではなくて、米空軍の将校が宇宙人とコンタクトしたという噂が日本にあるんですよ」

ルウは眼を丸くした。

「え？ バカバカしい！」彼女は天井を向いて大声で笑う。

私は続けた。「それで、その将校が書いた体験記にアダムスキーが名を貸した

というわけです」

「そんなことは信じられません！」

「いや、ただの噂ですから——』と私は手を振った。

「ただの噂ですよ。そんなことは信じられないわ。みんながいろんな事を言つてますね」

「多くの噂がありますよ」

「そうよ、もちろん。だけど私はジョー

ジ・アダムスキーは真実のコンタクティーだったと思うわ。そして彼はそういう下地ができていたのよ。彼は少年の頃チベットにいたんですが、全然そのことは話しませんでした。彼は一種の足場に立っていました。だから二人は共著で本を出したんです。しかしジョージはある意味で失敗したと思います」

「ああ、彼はイエスに関する面白い本を書きましたわ。イエスよりもむしろピラトについて多く書いてあります」

話を聞くと、どうやら推理小説風の作品を書いたらいい。

「デスマンドはすてきな人です。オスカーワイルドみたい。その話しぶりはとてもすばらしく、ずいぶんファンタスティックです」

ルウはデスマンド・レスリーとの会談の状況をひとしきり話した。

「彼はウインストン・チャーチルの甥だ

「そうです。家族は優秀ですか」

「じや上流階級の出身ですか」

「上流階級です。私がロンドンで初めて彼に会ったとき、彼は貧乏人でした。お金がなくて、テレビやラジオ局で働いていました。しかし後に彼はアイルランドの城に帰ることができました。アイルランド政府が国家予算で美しい城の保護政策をとつたからです。それで国からお金

をもらって、自分の城に住めるようになつたんです。そこには公園もあります。

私は湖が三つもあって、その美しいこととい

にカリフォルニア、ビスタの米GAP本

部を訪問してアリス・ウェルズやフレッド・ステックリングらに会い、フレッド

の案内でペロマー・ガーデンズも訪問したというから、米GAPと全く手を切つたわけでもない。いろいろ複雑な事情があるようだが私にはよくわからない。

「デスマンド・レスリーは今何をしていまますか？」

「ああ、彼はロンドンのある婦人から書きましたわ。イエスよりもむしろピラトについて多く書いてあります」

話を聞くと、どうやら推理小説風の作品を書いたらいい。

「デスマンドはすてきな人です。オスカーワイルドみたい。その話しぶりはとてもすばらしく、ずいぶんファンタスティックです」

ルウはデスマンド・レスリーとの会談の状況をひとしきり話した。

「彼はウインストン・チャーチルの甥だ

「そうです。家族は優秀ですか」

「じや上流階級の出身ですか」

「上流階級です。私がロンドンで初めて彼に会ったとき、彼は貧乏人でした。お金がなくて、テレビやラジオ局で働いていました。しかし後に彼はアイルランドの城に帰ることができました。アイル

ンド政府が国家予算で美しい城の保護政策をとつたからです。それで国からお金

をもらって、自分の城に住めるようになつたんです。そこには公園もあります。

私は湖が三つもあって、その美しいこととい

たけど——。彼はそこで暮らしています

が、裕福ではありません。書物を書いて何とかやっているのだと思ひます。またイギリス人がどうやって宇宙人を打ち負かしたかというようなユーモラスなスト

トリーも書いています（笑う）。彼の頭はストーリーや機知に満ちていますわ。

彼はジョージについては多くを語りません。目標を失つたのだと思ひます

続いてルウはロンドンのある婦人から聞いたという面白い話をした。他愛ない内容なので省略する。とにかくアダムスキーの体験による金星の状態などは、未 来において何かの結論が出るだろうが、自分は長生きできない。おまえはまだ若いから、それを知ることができるだろう

といふ。『ジョージは難儀な生活をすごしましたわ。マデリン・ロドファーから聞いたところでは、彼は疲労しきつていて、安らかに死んだということです』

ルウはハンドバッグから沢山のUFO 写真を取り出した。なかには私がよく知つてゐる写真もあるので、そのことを指摘すると、それらを除外しながら未知の写真を5〜6点私にゆずつてくれた。カメラのすばらしい写真である。

やがてボーイが案内に來たので、三人は階段を降りて地下の食堂へ入つた。部屋はさほど大きくななく、赤い布をかけた各テーブル上にロー・ソクが一本だけ置

いてあり、この光が唯一の照明である。

こういう店がヨーロッパでは高級なのだ。音楽は全然流れていません。暗い室内の静寂な雰囲気はすばらしい。出された

私は話題を変えた。

「アダムスキーは真実のコンタクティーではなくて、米空軍の将校が宇宙人とコンタクトしたという噂が日本にあるんですよ」

ルウは眼を丸くした。

「え？ バカバカしい！」彼女は天井を向いて大声で笑う。

私は続けた。「それで、その将校が書いた体験記にアダムスキーが名を貸した

私は話題を変えた。

「アダムスキーは真実のコンタクティーではなくて、米空軍の将校が宇宙人とコンタクトしたという噂が日本にあるんですよ」

ルウは眼を丸くした。

「え？ バカバカしい！」彼女は天井を向いて大声で笑う。

私は続けた。「それで、その将校が書いた体験記にアダムスキーが名を貸した

私は話題を変えた。

「アダムスキーは真実のコンタクティーではなくて、米空軍の将校が宇宙人とコンタクトしたという噂が日本にあるんですよ」

ルウは眼を丸くした。

「え？ バカバカしい！」彼女は天井を向いて大声で笑う。

私は続けた。「それで、その将校が書いた体験記にアダムスキーが名を貸した

料理は魚のオイル焼きで、これがまた実にうまい。聞いてみると、レマン湖でとれる魚だという。上等なワインを飲みながら陶然として三人で語り合う。他に東洋人は全くおらず、すべて白人客ばかりである。日本人が見当たらぬのに奇妙な安心感をおぼえた。この理由はあとの付記で述べよう。

録音テープが残り少なくなったので、重要な話だけをキャッチしようとして、たびたびスイッチを操作しなければならない。特にアダムスキニーの話になると、あわててナイフとフォークをおいては、テープレコーダーをいじるので、少々不作法に見えたことだろうが、どうにも仕方がない。

料理店内の楽しい雑談

ここでは談論風発尽きるところを知らず、UFO、政治、経済、語学等の問題を大いに語り合つた。前述の如クルウは英・独・仏・西・伊の五カ国語を自在にしゃべる才女であるが、三人の談話では大体に英語で話す。それも流れるような調子である。一体何語を母国語とするのかと呆れ顔で私が尋ねたら、バーゼルに住む彼女は低地ドイツ語を使つてゐるのだといふ。彼女はこの日、バーゼルからわざわざ三時間半かけて、列車でジュネーヴへ来てくれたのである。ピ氏はジュネーヴの市民だからフランス語を日常語とする。しかし、英語とドイツ語が達者で、ここでは英語で話していた。語学の重要さを痛感しながら、この店の名を知

りたいと思って後方の壁を見ると、『Le Bateau Ivre (酔っぱらった船)』と表示してあるので、それをフランス語の発音で読むと一人が驚いて、なんだフランス語ができるじゃないかと言う。いや、あと答えると、ルウがピ氏に向かつて何事かフランス語で話しかける。ピ氏も微笑してうなずきながらフランス語で答えている。私が話題になつているらしいが意味がよくわからない。もちろん悪口ではないことは二人の表情から理解できる。周囲の客もすべてスイス人らしく、柔らかいフランス語の会話があちこちから響いてくる。

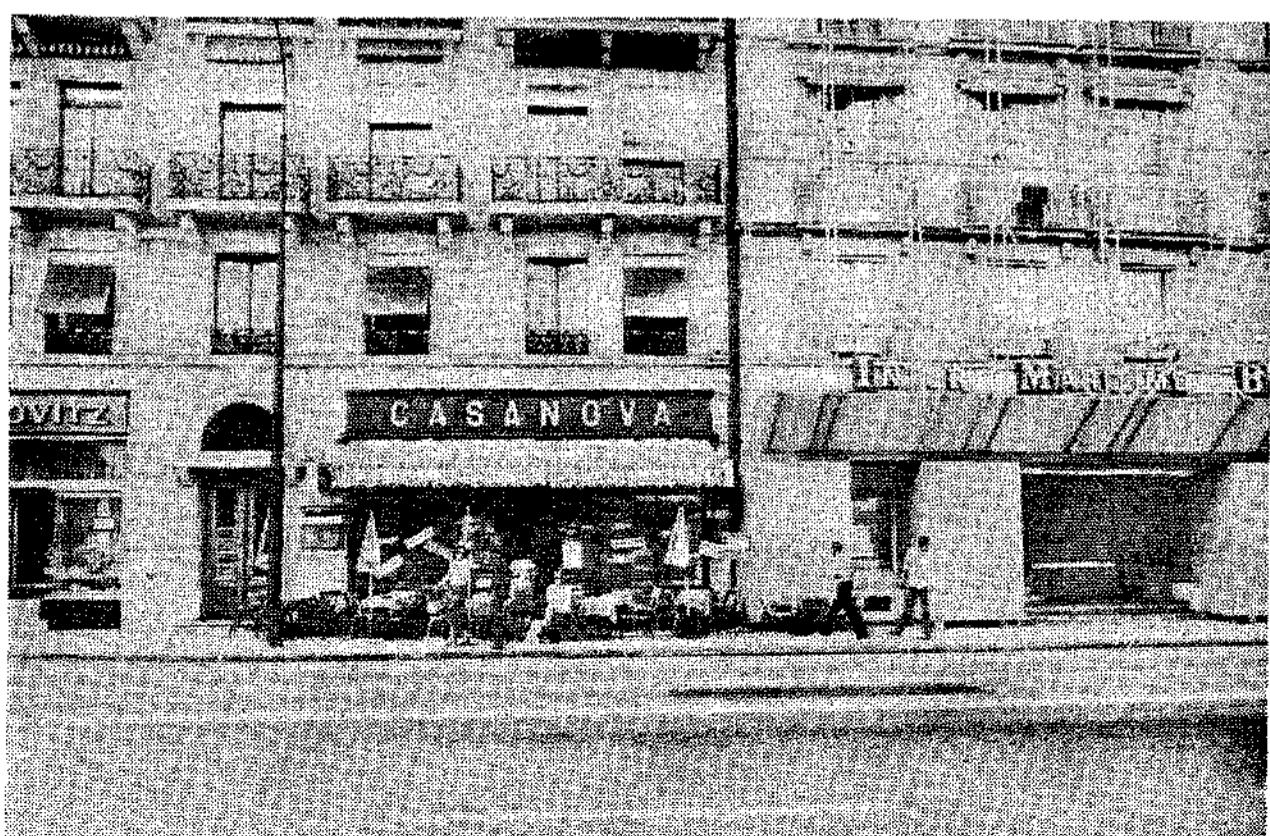
話は互いの個人的な問題に及んだ。外人に年齢を聞くのは失礼だと言われているが、親しくなれば尋ねても差し支えない。そこで三人が次々と年齢や過去の経歴、現在の境遇などについて語り合つた。

ルウは若い頃、大学で語学を専攻したという。道理で外国語が、うまい筈だ。ピリンジャック氏は五十九歳で、小さな町工場を経営し、約十人のスイス婦人を使つてプラチックの小物を製造している。二人とも日本をほめ讀え、あれだけの大戦争をやつて荒廃しながら、すこい成長をとげたのはドイツと日本だけだ、大変な国だ、我々スイス人は日本人だ、大変な国だ、我々スイス人は日本人だといふ。二人とも日本をほめ讀え、あれだけの大戦争をやつて荒廃しながら、すこい成長をとげたのはドイツと日本だけだといふ。二人とも日本をほめ讀え、あれだけの大戦争をやつて荒廃しながら、すこい成長をとげたのはドイツと日本だけだといふ。二人とも日本をほめ讀え、あれだけの大戦争をやつて荒廃しながら、すこい成長をとげたのはドイツと日本だけだといふ。

日本語の筆記を喜ぶ

意外に思ったのは、日本人は中国人の一族なのかと彼女が尋ねたときだ。やはり日本に対する認識不足なのか、とんでもない、日本人は純粹な民族で、中国人とは全然違う、文字だけは中国の文字を使用するが、読み方も違うし、日本語と中国語は根本的に異なる言語だと説明して、ひとつ日本語を書いてみせようと、ポケットから手帳を取り出して「今日はジュネーヴのあるレストランでルウ・チンシユターカとピリンジャック氏に会い、夕食を共にして、たいそう楽しむひとときを過ごしました」という文章を書いて読んでみせたところ、複雑な文字が何と早く書けることか！ と二人が感歎する。この文章の意味を英訳して説明すると、氏名を表記できる音標符号（カタカナ）に興味をもつたピ氏が自分の手帳を広げて、ここに日本文字で自分の名を書いてみてくれと言うので、「ロジエール・ピリンジャック」と記すと、おまえの名も書けと促すので、タテ横二通りに署名したら大喜びした。それで私

政府の年金で暮らしているとルウが言う。むかし一度結婚したけれども離婚して、その後ずっと独身を通してきたといふことだつた。ヨーロッパきての女流UFO研究家として令名を馳せたこれはどの才女になると、ヘタな男と一緒に暮らす気になれないのだろうか。ちなみにルウはエーリッヒ・フォン・デニケンとも友人である。



●ジュネーヴの街路

夜も更けてきた。名残り惜しいが明日は早朝に起きるので、そろそろ引き揚げねばならぬ。ボーアイが持つて来た勘定書を見ると、八十九イスフランで、さほど高額ではない。それで全部私が持つことにした。ピ氏がしきりに気の毒がつて半額出させてくれと言つたが、丁重に断つた。百フラン札を出して、残りはボーライにチップとして与えた。

夜更けの大通りを車で飛ばし、ホテルに着いたのは九時半頃だった。ピ氏と別れの挨拶を交わしたあと、ルウと二人でホテル内の食堂で少し雑談したが、騒々

しいのでロビーに移り、ソファに腰かけて、再びアダムスキー問題について質問したが、ルウはかなり疲れている様子であまり話したがらない。明日はシャモニーからモンブラン周遊旅行に行くので一緒に行かないかと誘つたが、夕方、親類の家のディナーに出席する必要があるので、昼頃にはジュネーヴを発たねばならず、不可能だらうと言う。それではどうわけで、いよいよ別れることにした。

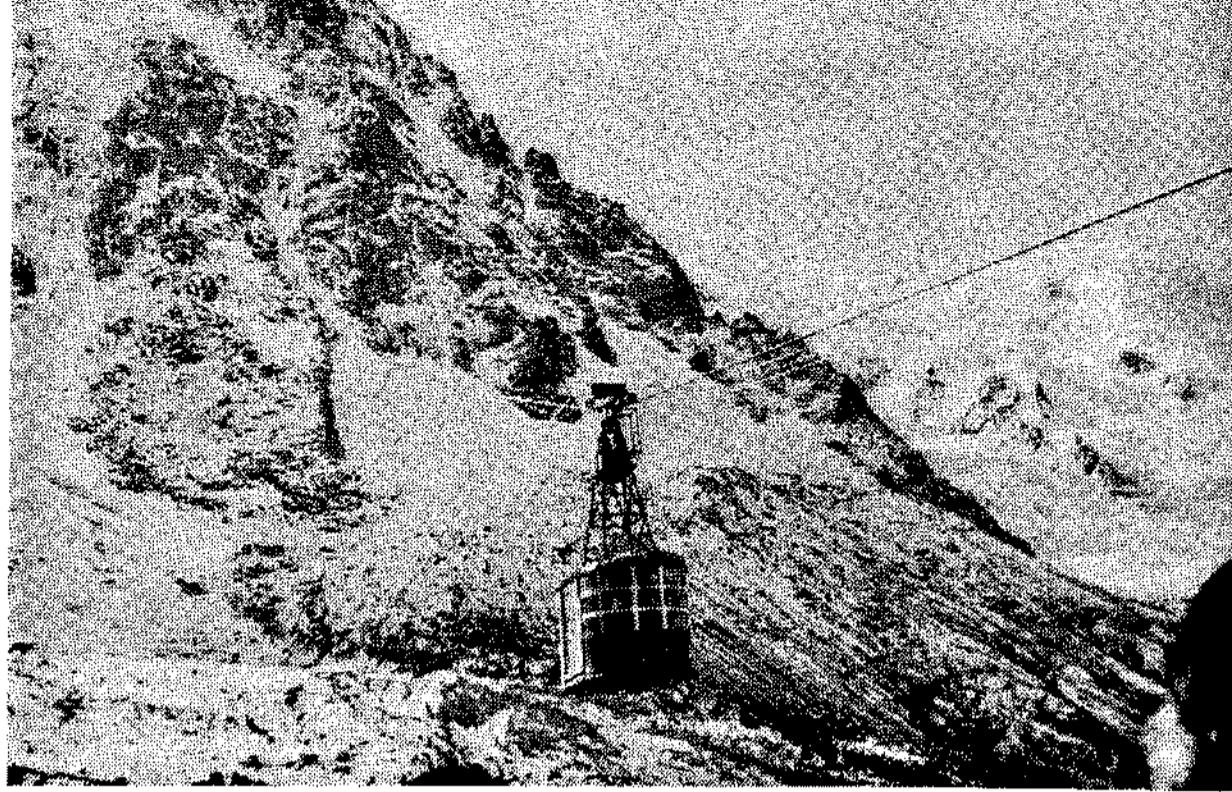
ホテルを出るルウを見送りがてら、大通りの横断歩道の所まで一緒に行くと、ここでルウは別れのキスだと言つて、私の左頬と右頬にそつと軽く唇（あご）をあてた。あたりにはまだ大勢の人が歩いていたが、ルウは意に介する様子もない。彼地の流儀だらうと私も割り切つた気持ちでいた。横断歩道を渡つた彼女は振り向いて手を上げる。更に前方へ早足で歩いて行き駅の玄関口に着いてから再び手を振つたので私も応えた。駅舎の前を横切つて遠ざかる彼女の姿を私はいつまでも見つめていた。

(完)

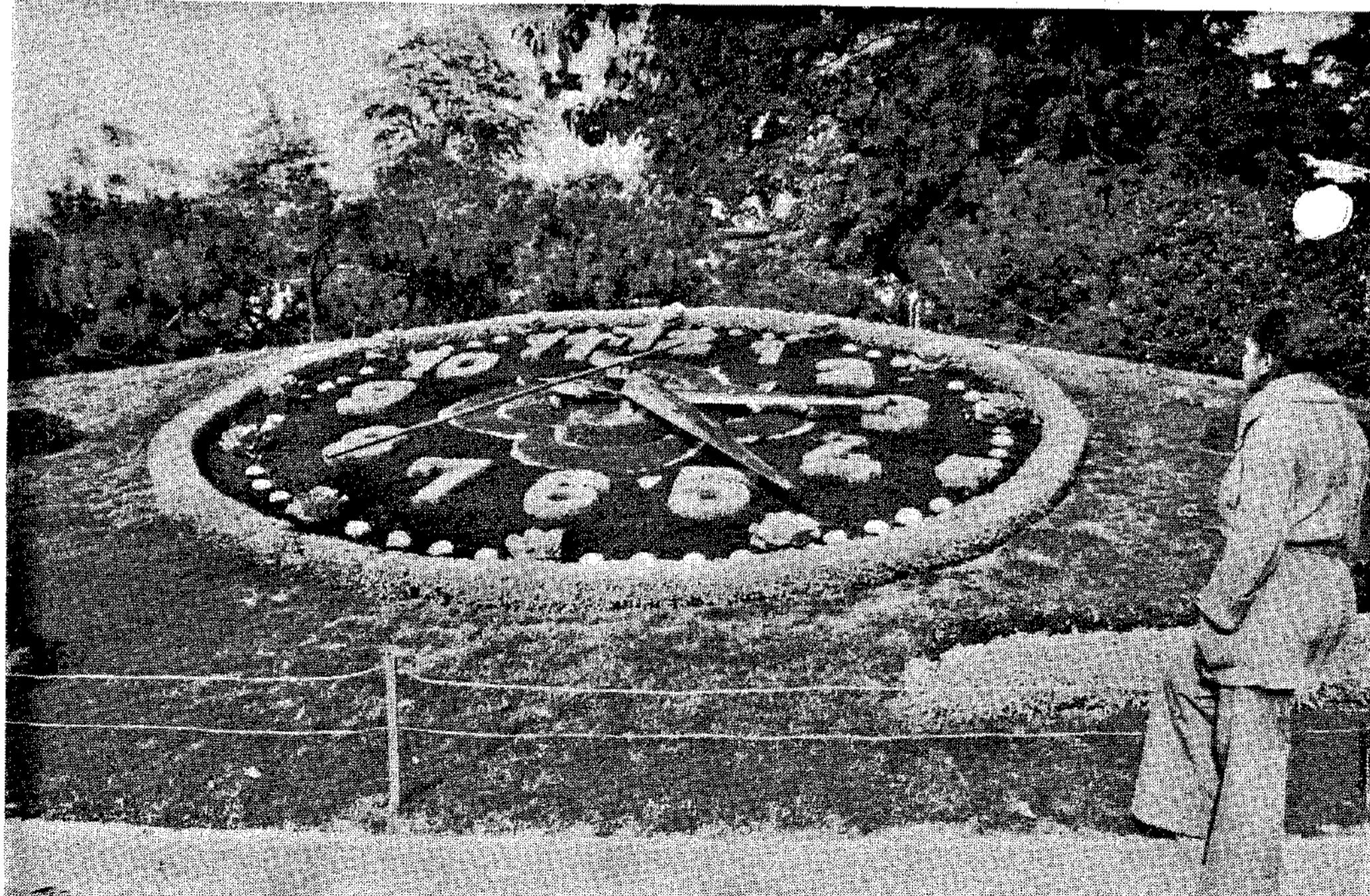
付記

今回の渡欧目的は西ドイツのフランクフルトで開催された一九七六年度ブックフェア（国際図書見本市）の視察であり、都内出版界の経営者と幹部から成る視察団に加わって、会社の出張として出かけたものである。北回りアムステルダム経由で、ポーランドのワルシャワを皮

●モンブラン眺望ケーブル



●ジュネーヴ、イングランド公園の花時計



FRANKFURTER BUCHMESSE

16.-21.9.1976



● フランクフルトのブックフェアの入口

各都市に二三日ずつ滞在しただけで時間の余裕が充分になく、この程度の旅行で大袈裟な印象記を書くことは差し控えたいが、それでも強烈な印象を受けたのはポーランド人の親日感情とドイツの見事な復興ぶりであった。日本が驚異的な成長をとげたことは海外でもよく知られているが、寸分の隙もない程に機械的、合理的に完成されているドイツの都市や農場などを見ると、日本人は足元に及ばないのではないかという気がする。各国を見て痛感したのは住宅の建築様式と日本のそれとの相違である。石造やレンガ作りのマッシヴな家で肉をたっぷり食つて暮らす人種と、吹けば飛ぶような貧弱な木造家屋で米を食つて生きる人種との間には、あらゆる面でまだ大差があるのでないだろうか。日本がG.N.P.で世界の上位にあるといつても大企業が儲けた数字の総計にすぎず、平均的な個人の生活レベルはスペインの田舎家に暮ら

切りにフランクフルト、マドリード、ロンドン、パリ、ジュネーヴと、わずか二週間のハード・スケジュールのため、ひどく疲れたが有益でもあった。ブックフェアではニューヨークの一社、ロンドンの二社と交渉してミステリー関係図書の入手方で話をまとめ、ロンドンでは世界最大の書店のフォイルズで約五十冊のUFO、ミステリー、超能力関係図書を購入して日本へ送るように手配をした。この店のUFOコーナーにはアダムスキーの「空飛ぶ円盤は着陸した」が十数冊並んでいた。

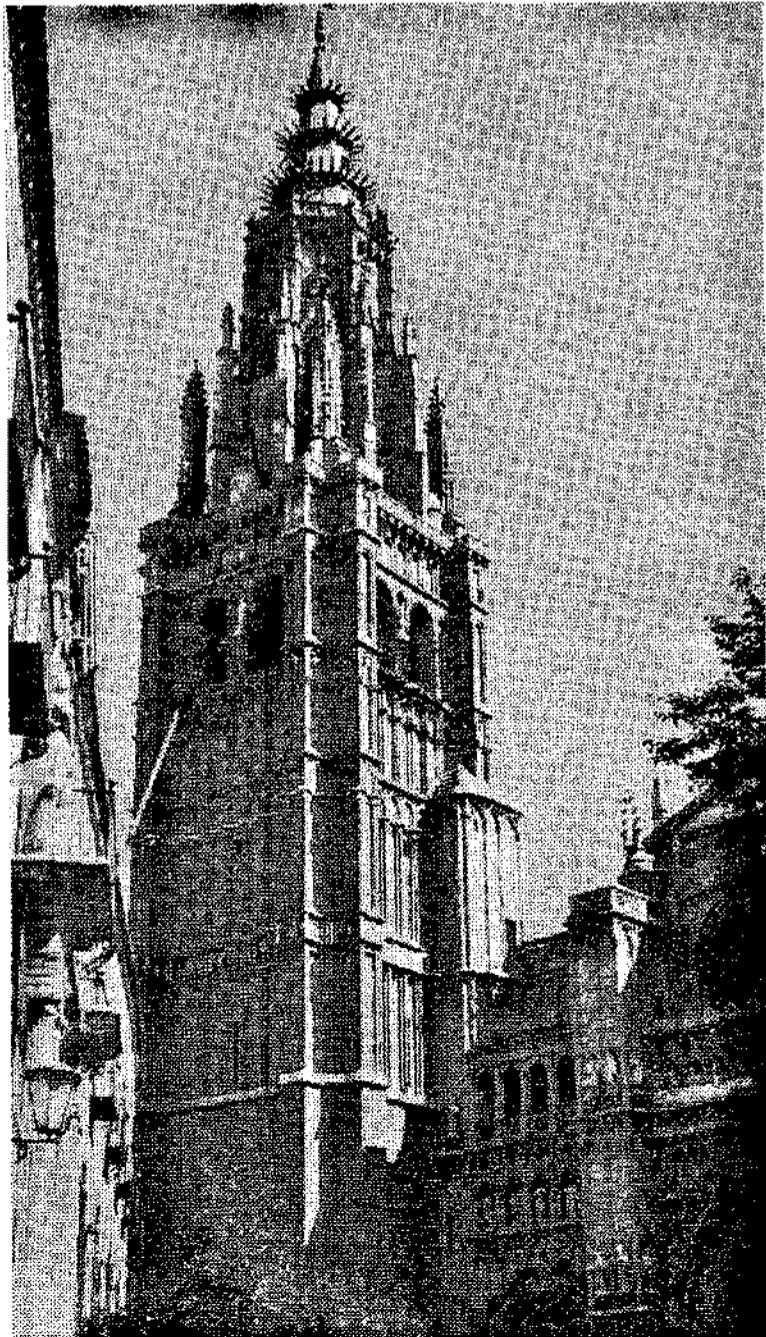


● ブックフェアー会場

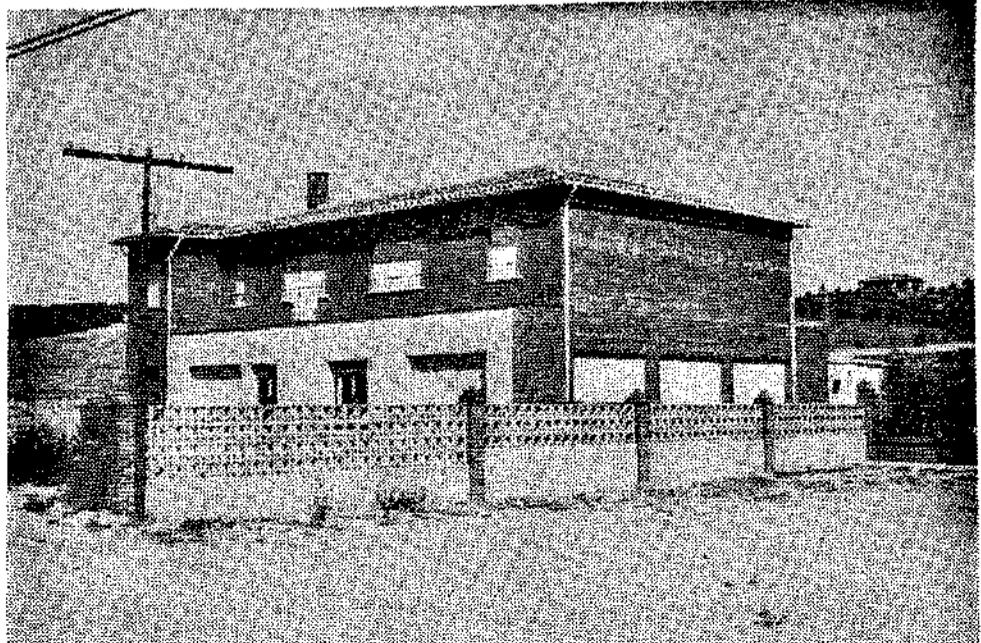
す家族にも劣るのではないかと、トレド近郊の石とレンガ造りの堂々たる農家を見ながら私は沈思した。石造だから優秀だというのではなく、ここでは住宅の様式と生活意識との関連を問題にするのだが、残念ながら戸別訪問をして内部を覗いて見る程の余裕はなかつた。筆者のように密集する不潔な木造家屋を見たヨーロッパ人は、これが人間の住む家かと驚くだろう。

ボーランド人の親日ぶりは予想外であった。当初、アダムスキーの故国というだけで、さほどの関心はなかつたボーランドのフルシャワ市内のどこを歩いてもヤボンスキ（日本人）！と言つて、我々を好奇と親愛感に満ちた眼で見る。こちらの团体バスに並行して市内バスが走っている場合、我々が手を振ると先方の

● スペイン、トレドの石造の大聖堂

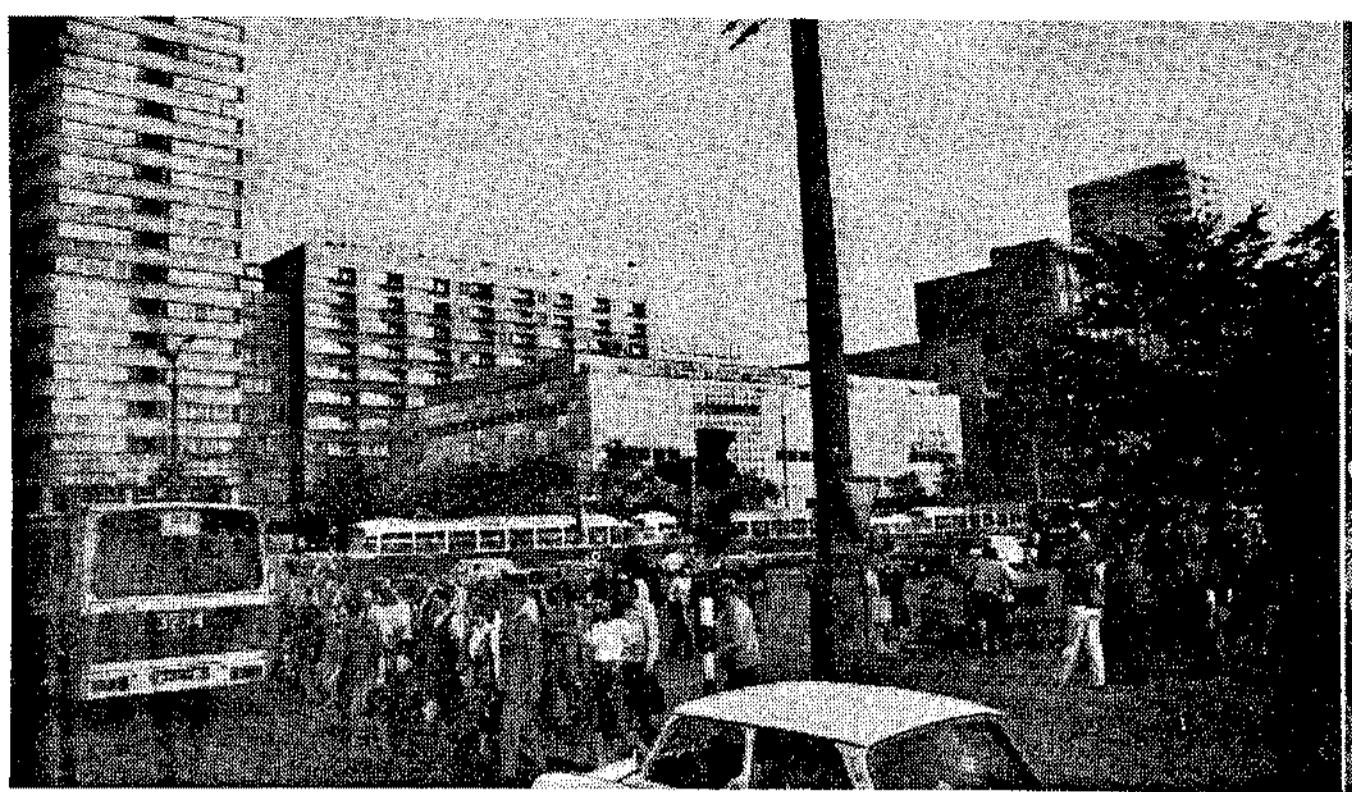


● トレド近郊の農家



乗客たちも一斉に笑って手を振って答える。このような光景は他国 の都市では見られない。ホテルの夕食会で日本大使館の方にこの理由を尋ねたら、むかしボーランドは帝政ロシアにひどく苦しめられた時期があり、そのロシア人を日露戦争で日本がコテンパンにやつつけたために、以来ボーランド人は日本人を英雄視して尊敬するようになったという。やはり戦争には負けるよりも勝つ方がよいのか。

ワルシャワ市内には娯楽施設や華かな商業地区らしいものが殆ど見当たらない。



●ワルシャワ市内

●ワルシャワのオールド・マーケット広場。中央は筆者。



買いあさるのは日本人で、しかも大量の日本製品が出回っているのも知らずに買ってゆくため、半ば現地人から面白がられ巴にされているらしい。私も次第にこの事実に気づいてロンドンのトラファルガーラ広場のそばの土産物店で息子から頼まれていた安物のコーヒーカップを見つけて「これは日本製ではないでしょうか」と聞いたら、ラテン系らしい店の女主人がゲラゲラ笑い出して、「それはイギリス製だから安心して下さい。でもこのあたりには日本製品が多いから日本人

日本人が蔑視される理由がある。国際感覚に乏しい上にマナーに欠けているのである。特に食事のときに口の音をペチャペチャさせて食物を噛む。ホテルの食堂で大勢の日本人が食事をすると、この音が水面を打つ秋雨のように響いてくる。それをボイイ達が軽蔑のまなざしで見ている。食事の際に口の音をさせるのは日本人とブタだけだといつて白人社会から冷笑されている事実をご存知ないらしい。食べ終わつた後もまだ口をチューチュッと鳴らしている。「パリでは日本人が音を立ててスープを吸う光景が名物になつてゐる」という話を聞いたことがあるが、何度も渡欧して国際感覚を身につけておられる同行者のG社N社長と、その女編集長のIさんから旅行中聞いた話でも、日本人の食事の不作法さには耐えられないということだった。これは習慣の相違と片づけるわけにはゆ

が、共産圏の暗さは全くなく、市民の表情は明るい。西側との交流がかなり自由に行われているようで、Tシャツにジーンズ姿の若者が多く、透き通るような白い肌の金髪の美人が町中に氾濫している。スタイルはニューヨークのそれと変わらない。

深い感銘を受けたのは旧市街区のマーケット広場で、周囲の建物は中世の時代のものかと思つたらそうではなくて、ドイツ軍により徹底的に破壊された瓦礫を

丹念に拾い集めて戦後元通りの町並みに復元したのだという。市民の八十五パーセントを殺したナチスに対する怨念が子うさせたということである。

各国の観光地で実際に多くの日本人に出くわしたのもオドロキだつた。トレードの大聖堂などは日本人だけで、付近の土産物店のおばさん達が「チョットミテクダサイヨ」と達者な日本語で呼びかけてギョッとさせたりする。そして土産物店にアリのように群がつて眼の色を変えて

は氣をつけなくちゃあね」と親切に注意してくれた。しかしどイツのライン河畔の船着場の土産物店に入ったときは失敗した。店のドイツ人達は最初から日本人をバカにしきっていたので素見だけで出ようと思ったが、若い男の店員が怪しげな日本語でしきりにドイツ婦人用の毛糸の肩掛けをすすめる。思いきって一着購入し、店を出たとたん、背後でドッと笑声が響いた。しまったと思ったが返すのも面倒とばかり持ち帰った。帰国して家内に見せると、案の定、こんな物なら都内でもっと良い品を安く売っていると笑って手に取ろうともしない。おそらく日本製か三国製なのだろう。

かない重要な問題だが、どうしたことか教育の場や家庭で全く意識されていない。だから、不遜な言い方かもしれないが、ジユネーヴのレストランでルウやピリンジャック氏と会食したときに日本人が出現しなくて安堵^{あんづく}したのである。

こうした日常のマナーを身につけないで宇宙の法則を云々しても無意味なのでまず食事の法則から研究してかからうではありませんかと読者諸氏に呼びかけた

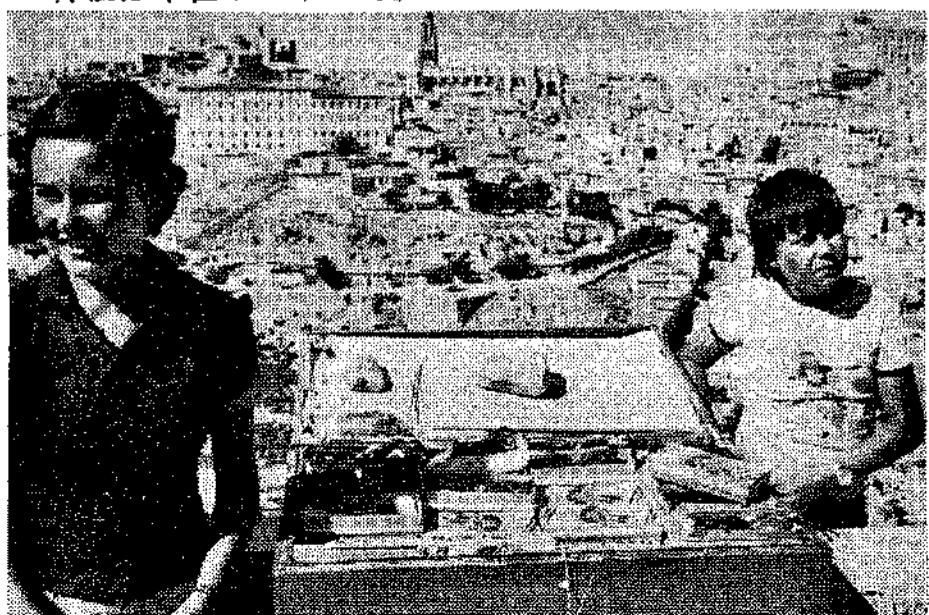
地球上どこを見てもしょせん同じことだろうと、正直なところ渡欧前にさほど期待をかけて出発した。カメラも35ミリ一台だけにショートズームレンズを装着し、フィルムを五本携行しただけだった。しかし聞くと見るとでは大違いで、短時日の駆け足旅行であるにもかかわらず、得るところ大なるものがあつた。同行した総勢六十余名のグループの方々は団体として見る限りみな善良で親切で協調的であり、トラブルは一切発生しなかつた。これでもって人間の友好関係の維持が如何に重要であるかを再認識するとともに、多くの人を“知ること”的意義の深さをも痛感した。ワルシャワのマーケット広場で親しく話し合つた、日本に憧れる十九歳の美女ヴァンダ・ヤドヴィガ・ヤンコヴスカ。ヒマワリの実を食べている

人の老婦人——ベンタックスをさげた彼女は私が持つニコンカメラをいたく賞揚した——、フォイルズ書店で親切に世話をしてくれて、日本人妻を持つことを告白し、日本の伝統的な建築に多大の関心があるので研究法を教えてくれと相談をもちかけた店員のC氏、スペインの中世トレドのすばらしい光景が展開する展望台でカスタネットの使用法を教えてくれた、カスタネット売りの愛くるしい少女マリア、そしてジユネーヴでのルウとピリンジャック氏、帰りの機内で語り合つた友好的な英国人紳士、その他多くの人々——。あくどい土産物店を除けば世界の人々は共通した融和と善意の要素を秘めているように思われる。ただそれを発見すればよいのだ。

また、各国の万巻の図書が陳列されていたフランクフルトでは語学の重要性を

腹の底から感じて、自身の浅学非才を深く恥じた。こうなれば英語などはもはや母国語同様とし、加うるに独・仏・西語をマスターしなければ国際的な交流研究活動は不可能であると断じ、このトシながらこれら各国語の猛勉強を開始しようとした。帰國後柄にもない計画を立てた。どこまで続くかわからぬが、とにかく頑張つてみようと思う。そしてこのような意欲を起こしたのも今度の渡欧の一大収穫であつた。実際、無名ながらも数カ国語を駆使して海外で活躍する優秀な商社マンを何人か知っているが、——その中にはインドネシア在住GAPメンバーの志田夫妻もいる——こうした人達が日本人の良きイメージを与えていた真の意味での外交官なのだろうと思う。

●力斯塔ネットを売るマリア姉弟。
背後は中世トレドの町。



●ヴァンダ・ヤドヴィガ・ヤンコヴスカ。
ヒマワリの実を食べている

ついでながら、もう少し語学について述べると、英語さえできればヨーロッパ各国のどこを歩いても不自由をしないといふのは一種の伝説であり、当を得ていないと思う。各国の空港の係員や大きな店の店員さんなどは、ある程度英語がしゃべれるようだが、一般人はそうでもない。詳細は不明だが、フランス人、スペイン人は大体に英語を知らぬらしい。ドイツはどうだらうか。西ドイツのフランクフルト空港の売店で、ドイツ人の売り子に「チリ紙がありますか」と英語で尋ねたところ、キヨトンとしている。するとそばにいた見知らぬドイツ婦人がドイツ語に通訳してくれたので、意志を通じることができた。ドイツ人には英語可能な人がかなりいるようにも思われるが、

実態はよくわからない。ハイデルベルクの古城でワインを飲んだとき（ここではごつた返す参觀者にワインを飲ませて、グラスを記念にくれる）、係員に英語で質問したが、サッパリだつたし、ジユネーヴのタバコ屋に入つて、英語で用を足そうとしたが、そこのおばさんは英語のエの字も知らず、フランス語でまくしてるので当惑していたら、折よく入つて來た紳士が英語を母國語とする仏語の堪能な人で、これが通訳をしてくれて助かった。

欧洲各国を一人旅して自在に日々を樂



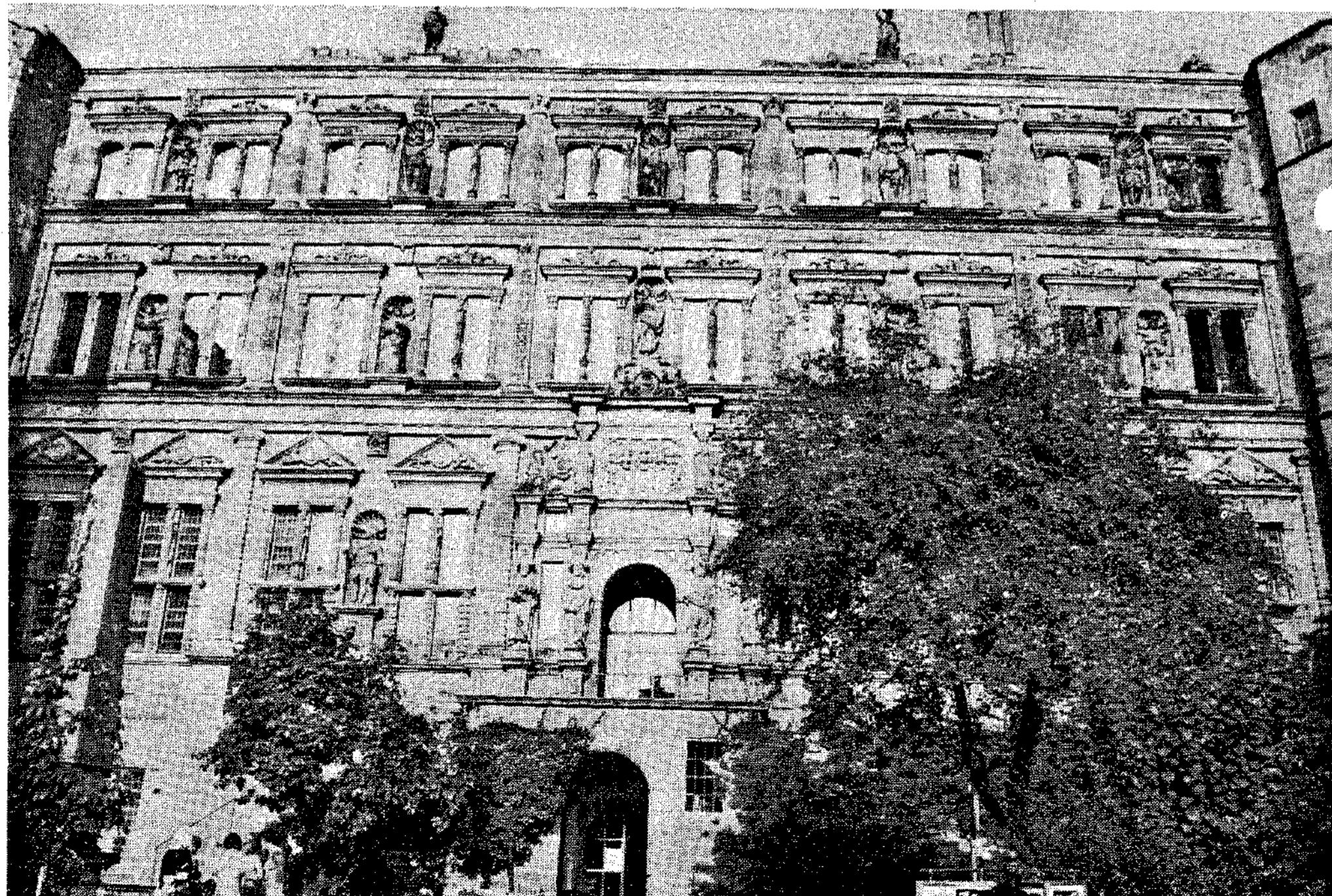
●復元されたワルシャワの王宮。ここにはポーランド王子であったアダム・スキーの父君が住んでいた？

しんたり、商用で歩きまわつたりするには、やはり数ヵ国語の知識を必要とするだろう。私の場合にこの知識が重要となるのは、フランクフルトのブックフェアの場のごとく、各國語の文献の山を眼の前にして、どれを手に取つて見ても大体に何が書いてあるかがその場で理解できねば、どう仕様もないからである。みすみす宝石を取りにがすかもしれないのだ。

もう一つの収穫は、短期間ながらもヨーロッパ各国を旅しているうちに英語から受ける重圧感が吹き飛んでしまったことである。要するに英語とは世界という廣場の中の一つの“地方語”にすぎず、早く言えば我々が国内の方言を覚える程度の意味合いしかないという感触を得たのである。これは貴重な体験であった。といって、私が既成の英語の達人だという意味ではない。むしろ英語というものに多年懊惱してきた非力の自分なればこそ、何とかしなければという焦燥に駆られたいたのだが、今や不可視の壁が崩れて、前途に光明が見えたような気がするのである。この突破口を開いたのが“旅”そのものであつてみれば、これは計り知れぬ価値を持つと言えるだろう。

具体的に言うと、英語をマスターしたいと思われる方は、何はおいてもまず小金を貯めて、近くのマニラ、香港、シンガポール等、英語が日常語として話される土地へ行き、数日間滞在して、まがりなりにも現地人と直接に英語で話してみることだ。これは金に代えられぬ貴重な体験になることにあとで気づかれるだろ

●西ドイツ、ハイデルベルクの古城跡。



う。そして、これがその後の学習に絶大な刺激となるのである。

ついでながら、日本人は学習に際してイギリス英語とアメリカ英語のいずれを選択しても差し支えないと思う。本誌58号で指摘したように、イギリス英語を東京弁とすれば、アメリカ英語は関西弁のようなものだという私の説は、バイリンガリスト（一カ国語を母國語とする人）の米人女性が、そのとおりだと確証した。しかし、いずれでも相互に通用するので、むづかしく考えずに好みの発音を身につければよいと言う。ただしデータラメな日本式発音は禁物である。これではニュートラルの部類にも入らない『自分がだけの英語』になってしまう。

しかしアメリカでもヨーロッパでも、非英語国民の白人で、ずいぶん怪しげな英語を堂々としゃべる人もいるから、海外に出て日本人は片言英語を少しも恥じる必要はない。完全に沈黙していく途方に暮れるよりも、まがりなりにも外国语を口に出して、意志の疎通を図る方がはるかにましである。

本誌第58号で、英米の映画の録音テープを聞く方法をおすすめしたが、あれはある程度の会話能力をもつ人のためであつた。白紙の人または英文は多少とも読めるが会話はゼロという人のためには、中学の英語教科書を学習されることを強調したい。中学英語こそは『しゃべれる英語』の基礎をつける英会話のキイなのであって、これをマスターすれば国連大使がつとまるといわれるほどに重要なものなのである。大半の日本人はこの事実

を見逃している。中学を卒業したとたんに英語教科書をどこかへ追放して、あとは見向きもしないでは、基礎ができるわけはない。これでは一流大学を出ても英語がしゃべれないのは当然である。上級校へ進学すればするほど、『しゃべれない英語』を教えるからだ。大学に至っては英語そのものを教えるのではなくて、『英語に関する何事か』を日本語で講義しているにすぎない。

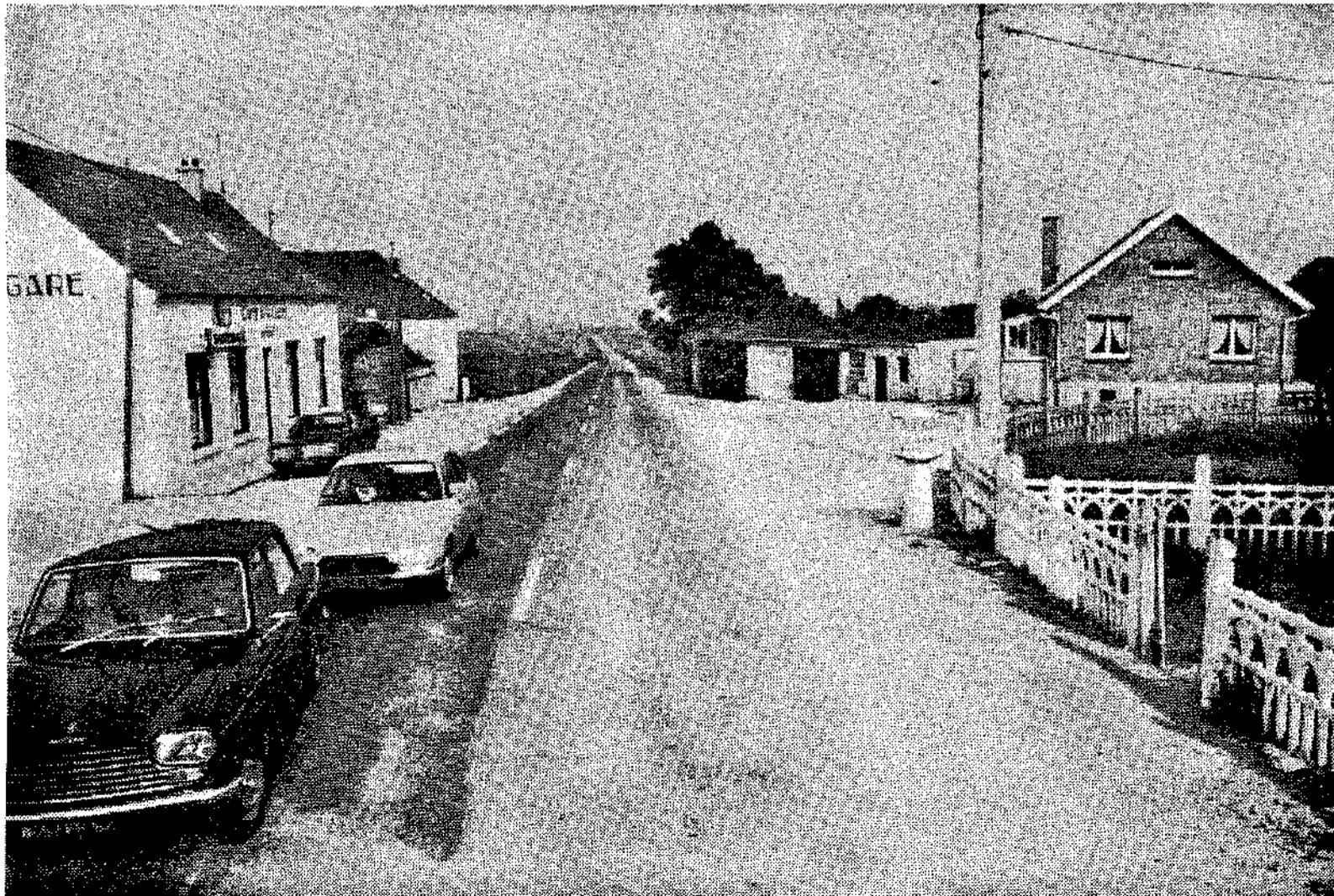
さて中学のリーダーでは開隆堂のニューブリンスが良いと思う。これを巻一から巻三まで市販のトランクの巻を見て徹底的に学習し、全英文を丸暗記する。一方、この内容を英米人が朗読したテープをセットで販売しているから、それを求めてイヤというほど反覆聴取するのである。

教科書はなくとも、書店で各学年用のトラの巻を売っているから、それだけ入手してもよい。これには教科書の英文と解説が一緒に掲載してあるから都合がよい。国連大使になれるほどの、口語英語の宝庫ともいえるこんな便利な書物を利⽤してマスターしようとするオトナがほとんどいないのは不思議な現象である。

もちろん中学英語が英語のすべてではないが、まず、これによって「まがりなりにも英語で考えたり話したりすることができる自分自身の小さな世界」を作り上げるのである。これが絶対に必要なものであって、この『小さな世界』さえできたら、頭が空転するだけだろう。

昨年の米国旅行の際に話した米人との会話の用語は、ほとんど日本の中学生ないし高校一年程度であつたし、本記事中のルウや私の話も大体にそんなものである。英米人が日常話す会話はその程度のものなのだ。こうなると中学英語を見逃している。中学を卒業したとたんに英語教科書をどこかへ追放して、あとは見向きもしないでは、基礎ができるわけはない。これでは一流大学を出ても英語がしゃべれないのは当然である。上級校へ進学すればするほど、『しゃべれない英語』を教えるのではなくて、『英語に関する何事か』を日本語で講義しているにすぎない。

●フランスのある田舎道。



マスターすることの重要さをいかに強調しても強調しすぎることは無い。

語学の問題に関して言及したいことは山ほどあるが、それは本誌の目的にそわない。これでおくことにしよう。質問のある方は郵便でよこされたい。

（本記事中の写真はすべて筆者撮影）

(一頁より)

イメージを描く方法については、たびたび本誌で紹介したが、これは重要であり、多くの成功例があるので、ここに再度述べることにしよう。

人間にはたれしも望ましい物事があってぜひとも実現させたいと願うけれども、成功しないことが多い。なぜか？

大抵の人は金と運がなければ物事は実現しないと思い込んで、最初から諦めてかっている。これでは実現しない。物事の実現は原因に対する結果であるから、まず原因を作ることが肝要である。そのために必要なのは、「必ず実現する?」という強烈な信念であるが、この“信念”という抽象的な言葉はよく理解できているようで案外捉えがたく、理屈ではわかつても、ある目的のために把握しようとする、もろくも崩れてしまう。つまり“信念”という概念だけの持続に終わるものである。これでは願望は実現しない。

それよりも根本的に重要なのは、"望ましい物事が、すでに実現してしまった光景をハッキリと心中に描く"ことである。たとえば自動車が一台入用になつてきたとする。交通の不便その他の事情によりこれがないとどうしても生活がスムーズにゆかない。これは自分にとって不可欠の生活必需品だという状態になつたけれども、一方では資金がない。喉から手が出るほど欲しいが、どうにもならない"ことが実は"どうにでもなる"のであり、そのための魔術的秘法が"イメージによる成就法"なのである。以下

それを述べると――

静座して体をゆったりさせ、雑念を払
いのけて、体内に宇宙の意識^{コスモシック・コンシャスネス}が充満し
全身の細胞がそれによつて生かされてい
ると観じて、全身が大宇宙の創造主の英
知あるパワーに生かされているという自
覚を高めてゆく。これは頭で考えるので
はなく、全身にそのようなフィーリン
グを起こすのである。

ある程度、自覚が高揚したあたりで、次に心中に明瞭なイメージを描く。このときは瞑目している方がよい。自分が新しい自動車を購入して、欣喜雀躍としてハンドルを握りながら、快適なドライブを続いている光景を、テレビの画面を見るように、心中に極力鮮明に描き、「ああ、実現した！ 私は嬉しい！」と大声を上げて喜んでいる自分の姿を更に描く。約五分ないし十分間描いたら満足し切って中止する。これを一日に数回実行するのである。数十万円もする高価な品を買う金がどこから出てくるのだろうか、維持費はどうなるか、というような心配は一切不要である。むしろ心配や疑念は実現を妨げるから、絶対に起こしてはいけない。そして金の出所などについても一切考えてはいけない。ただ只管イメージを描き続ける。すると機が熟した折に突如新車（または程度良好な中古車）が入手できる機運が生じてくる。それがどのような方法かは予測できない。だれかから融資があるだろうし、友人や知人の所有車を有利な条件で譲り受ける話がボカツと出てくるかもしれない。あるいは懸賞に当選して賞品として与えられる

のかもしだれない。とにかくなんらかの方
法で実現する。自動車ばかりではない。
その他あらゆる願望に応用できるのであ

る。

これはマーフィーなどの唱える信念の魔術に似ているが、やはり違う。なぜなら、こちらの方は宇宙の意識コスモシスという至

上絶対なるものにマインドを同調させた
自体が宇宙の創造パワーに乗つかつているのである。ひとくちに信念といつても、段階があるけれども、こちらの方は絶対的信念となる。願望を紙に書いて読みながら唱えるという方法も悪くはないが（もちろん、そんな方法を頭からバカにしてかかつて、信念のシの字も持とうとしない人よりも、実行する方がはるかに得策なのだが）、こちらは内部に宿る宇宙の意識という絶対的な支持者と一体化しているのだから、イメージの実現度も高いのである。

なぜイメージを描くと実現するのか。これは科学的には未解決だが、少なくとも強烈な想念波動を放射して、類似の波動と同調し、願望事を引き寄せると考えられるし、一方、センスマインドの内部にあるソウルマインドに青写真を焼き付けると、それが願望事の実現の方向に本人の運命を形成して、強力に推進するとも考えられるが、あまり理屈をこねないで、実例から帰納的に類推して、信じてかかる方がよい。当然あり得ることなのだ！

しばしば強烈にイメージを描いて実行しながら、どうしても実現しない場合は

言葉、団体活動などではないにもかかわらず、そうしたものに魔術的力が潜んでいると錯覚を起こすからである。自分を救う魔力は自身の内奥に潜在するのであり、他人や外界にあるのではない。もちろん相互扶助は必要だが、それは二次的な問題で、根本的にはまず個人の全身に宿る創造パワー——宇宙の意識——に対するマインドの自覚と同調が必要で、そこから願望達成、超能力開発等の扉が開かれるのであると思う。なおマインドを宇宙の意識ヨウズイ・コンシスネスと同調させるのに特殊な手法や祈りなどは全く必要ない。そのフイーリングを起こせばよいのである。

それなりの理由があることと解して、あとは中止した方がよい。自動車入手がイメージどおりに実現しないのは、入手してよい正当な理由があつても、イメージの描写力が弱いか、または入手しない方がよいという摂理によるものかの、いざれかである。

以上は願望を実現させるすばらしい方法だが、一般人は容易に信じない。精神の神秘的な性質について全く関心がなければ信じないのも当然だが、なによりも人体を形成して生かしている超自然的な力——宇宙の意識——の自覚力がなければ、イメージ描写の秘法を伝えても無意味だろう。

世には多種類の宗教や哲学が存在し、救いの道を説いている。どれをみても一理ありそうで、それらを信仰して実際に救われれば有難いが、うまくゆかぬ場合が多い。なぜか？ 自分を救うものは自分自身なのであって、教義、『真理の』言葉、団体活動などではないにもかかわらず、そうしたものに魔術的力が潜んでいると錯覚を起こすからである。自分を救う魔力は自身の内奥に潜在するのであり、他人や外界にあるのではない。もちろん相互扶助は必要だが、それは一次的な問題で、根本的にはまず個人の全身に宿る創造パワー——宇宙の意識——に対するマインドの自覚と同調が必要で、そこから願望達成、超能力開発等の扉が開かれるのであると思う。なおマインドを宇宙の意識^{コスモック・コンシャスネス}と同調させるのに特殊な手法や祈りなどは全く必要ない。そのフイーリングを起こせばよいのである。

世界最大の円盤物語

事物が多大の骨折りによつて隠されるとき、それを破壊することである。
それを渡らすことは、それを修道院長が食前の祈りを唱えようとしていたとき、その修道院の信者の一人が走り込んで来た。空中に大いなる兆しが見えたと叫んでいる。

グレイ・バーカー

「見よ！ 円盤状の大きな丸い銀色の物が一同の頭上をゆっくりと飛んで、まさしく恐怖をひき起こした」

この大昔の話のいいところは、古典的な矛盾のない一貫性である。だれかが円盤を見ると、その解釈を求めて有力な権威者のもとへ行く。この場合、きわめて小さな修道院という世界の知的な権威者はいうまでもなく院長である。

疑問に直面した院長は、ある解釈をもち出した。それはつまり空軍のスポーツマンが恥じ入るような名言であった。

「それを見た院長のヘンリーはすぐ叫んだ。ヘンリーが人妻を寝取ったもんだから、あれを食べるのはよくないんだ……」

ウィルフレッドという男は羊を提供した男である。彼が実際にそんな罪を犯したかどうかは不明だが、院長の前キンゼー的発言は、彼の名を不滅にしてしまった（または不道德に！）。（訳注）アルフレッド・チャールズ・キンゼーは一九五六年に死んだ米国の社会学・生物学者。人間の性行為を研究した）。これは一二九年にあった事実であるからだ。

修道士たちは羊を焼き終えたばかりで修道院長が食前の祈りを唱えようとしていたとき、その修道院の信者の一人が走り込んで来た。空中に大いなる兆しが見えたと叫んでいる。

院長が太った体を動かして中庭に走り出でみると、空飛ぶ円盤がいた。

「見よ！ 円盤状の大きな丸い銀色の物が一同の頭上をゆっくりと飛んで、まさしく恐怖をひき起こした」

この大昔の話のいいところは、古典的な矛盾のない一貫性である。だれかが円盤を見ると、その解釈を求めて有力な権威者のもとへ行く。この場合、きわめて小さな修道院といふ世界の知的な権威者はいうまでもなく院長である。

疑問に直面した院長は、ある解釈をもち出した。それはつまり空軍のスポーツマンが恥じ入るような名言であった。

間違いない、この古い物語は、円盤の飛来について世界的に関心を呼び起したある書物の最初の部分に述べてある。

一九五二年、ウインストン・チャーチルの従弟（訳注）正確には甥）にあたるレスリーによると、一九四七年にケネス・アーノルドが一般化させた空飛ぶ円盤は、今に始まつたものではなく、有史以来出現してきたことがわかつたといふ。

数種の出版社が彼の原稿を読んで、びしやりと伏せた。「気違ひだ」と言うのもあれば、「科学的すぎる」と評したのもあるし、「こんなものを興味をもつて読む人はあるまい」と片づけたのもあつた。

しかし一九五二年の十一月に、ロンドンの自宅から数千マイル彼方で発生した劇的な事件によつてレスリーの運命が変わつた。その月の二十日にジョージ・アダムスキーリーがカリフォルニアの砂漠で、大気圏外から来た人と会つたのである。ニューヨークとロンドンの出版社は立ち上がりつて注目した。そしてすぐにアダムスキーリーの宇宙人來訪の記事を買ったのである。しかしその原稿は一冊の書物にするには短かすぎた。ところがロンドンのT・ワーナー・ローリー社が全く偶然アトランティス人のビマーナ（空艇）は木または金属で出来ており、水銀を利用したエンジンで推進された。ただし正確な推進法は述べられていない。エネルギーはノズルまたは噴射口から噴出されて種々な方向に変えられ、船体を操縦した。このビマーナは時速わずか百マイルで進行できたにすぎないが、進歩した船体ならば別な惑星へ行けるものと考えら

（空飛ぶ円盤は着陸した）と題する本を出版社は Flying Saucers Have Landed

（空飛ぶ円盤は着陸した）と題する本を出版社は Flying Saucers Have Landed

世に出した。

最近の集計によると、米国版は十二版を重ね、五十万部以上売れている。一方、ジョージ・アダムスキーリーの記事は各国語に翻訳され、世界中で論議的になつたのである。

ビマーナと金星人

ジョージ・アダムスキーリーの身に発生した事件の概観は、この珍しい書物そのものを実際に読めば、最もよくわかる。

デスマンド・レスリーは前述の修道院の目撃事件に関する古い物語で執筆を始めている。そして一六一九年に始まる一連の類似事件を説明し、原稿の締め切りまで、数世紀にわたる事件を展開している。

続いて彼は古代にさかのぼつて調べているのである。

先史時代からアトランティス時代に及ぶ書本には、現代、空中で見られる物体によく似た人工の円盤について述べられているばかりでなく、それを建造する方法まで伝えているといふ。

アトランティス人のビマーナ（空艇）は木または金属で出来ており、水銀を利用したエンジンで推進された。ただし正確な推進法は述べられていない。エネルギーはノズルまたは噴射口から噴出されて種々な方向に変えられ、船体を操縦した。このビマーナは時速わずか百マイルで進行できたにすぎないが、進歩した船体ならば別な惑星へ行けるものと考えら

れている。しかし世界の人類の歴史と伝説を通じて流れている大変動の「ノアの洪水」が、この古代の円盤建造文明や驚異的な空飛ぶ機械までも一掃してしまったらしい。

太古の円盤の推進法

現代の原爆に似た武器の話も古代の写本中に見られると、レスリーは言つている。アステロイド帯はかつて一個の惑星だったかも知れず、その科学者が自爆させたのだろうと彼は考えている。

太古のこの円盤のすべては今日我々が物理的方法とみなすような手段で推進されたものではない。空中浮揚の能力があったといわれるアビラの聖テレサをとりあげたレスリーは、彼女は驚くべき豊富なパワー、音響のコントロールなどをマスターして、それによりある種の波動を生じ、肉体や建物の石などを浮揚させたと思われると述べている。かりに適当なピッヂの樂音が鏡を破壊し得るものとすれば、「もし音響が完全に理解されれば……それは浮揚効果を生じさせる電磁力と一体化するかもしれない」ということが考へられないだろうか」とも言う。先史時代の空飛ぶ円盤は文字どおり「歌とともに飛んだ」のであり、現代の円盤も宇宙のエネルギーを取り出すのに同じようない私法を応用しているのではないかとレスリーはほのめかしている。伝説上の魔法使いが用いる神秘的な呪文や「開け、ゴマノ」は、山を動かしたり大ビラミッドを建造したりした『半分記憶され

ている音響』なのかもしれないという。

このことは大ピラミッドの十五トンにも及ぶ磨かれた石が持ち上げられて、現代に見られるような機械を使用しないで信じられないほど正確に積み重ねた方法を説明しているのかもしれない。現代の機械を使用しても不可能だろう。

宇宙の偉大な自然エネルギー源が太古の人間によつて開発できたとすれば、なぜ同じ事が今日やれないのだろう？ 超自然と呼ばれる領域が、いつか科学の大いなる未開拓分野になろうという多くのオカルティストの見解をレスリーは取り入れているけれども、障壁にさからつた方向へ導いている既成の方法を科学者が捨てるのは困難である。一例としてレスリーは電気をあげて、その実体が何であるかを指摘し、自分のテレビ受像機を実際に作動させているものは何であるかを説明できた科学者はまだないと述べている。しかも彼らは配線を流れる電気を

アダムスキーやパロマー・ガーデンズに住んでいた。これは二百インチ望遠鏡のあるパロマー山の斜面である。自分を「哲学者、学徒、教師、円盤研究家」と述べた彼は、その天文台の職員と関係はないと指摘している（訳注：これは誤りで、彼は「職員ではないが、その職員の幾人かと親しくしている」と言つたのである）。正規の職業は述べられていないが、アダムスキーはパロマー・ガーデンズのレストランと一緒に作動させていたと聞いたことがある。近くの砂漠に円盤（複数）がよく着陸していたと聞いたことがある。彼は、「これはたぶん乗員とコンタクトしたと称する人々から聞いたのだろう」、自分の運だめしをやることにした。四名の友人、秘書、レストランの経営者らと共に、彼は早朝出発した。このグループはアリゾナ州ウイーンスロウのA・C・ベイリー夫妻、パロマー・ガーデンズの所有者でレストランの経営者アリス・K・ウェルズ夫人、アリゾナ州ブレスコットのジョージ・H・ウィリアムソン博士夫婦、秘書のルーシー・マクギニス夫人から成っていた。アダムスキーは主として予感によつてコンタクトの場所をきめた。そこはデザート・センターからアリゾナ州バー・カーサ寄りの約十マイルの砂漠上である。彼はかねてから予感またはフイーリングに従う習慣を発達させていたのだ。昼食をとるために停車した一行は付近を旋回する飛行機に気づいたが、続いて巨大な葉巻型宇宙船を見た。新たな予感に従つてアダムスキーは、自分がハ

第二部に案内することにしよう。

アダムスキーやパロマー・ガーデンズに住んでいた。これは二百インチ望遠鏡のあるパロマー山の斜面である。自分を「哲学者、学徒、教師、円盤研究家」と述べた彼は、その天文台の職員と関係はないと指摘している（訳注：これは誤りで、彼は「職員ではないが、その職員の幾人かと親しくしている」と言つたのである）。正規の職業は述べられていないが、アダムスキーはパロマー・ガーデンズのレストランと一緒に作動させていたと聞いたことがある。近くの砂漠に円盤（複数）がよく着陸していたと聞いたことがある。彼は、「これはたぶん乗員とコンタクトしたと称する人々から聞いたのだろう」、自分の運だめしをやることにした。四名の友人、秘書、レストランの経営者らと共に、彼は早朝出発した。このグループはアリゾナ州ウイーンスロウのA・C・ベイリー夫妻、パロマー・ガーデンズの所有者でレストランの経営者アリス・K・ウェルズ夫人、アリゾナ州ブレスコットのジョージ・H・ウィリアムソン博士夫婦、秘書のルーシー・マクギニス夫人から成っていた。アダムスキーは主として予感によつてコンタクトの場所をきめた。そこはデザート・センターからアリゾナ州バー・カーサ寄りの約十マイルの砂漠上である。彼はかねてから予感またはフイーリングに従う習慣を発達させていたのだ。昼食をとるために停車した一行は付近を旋回する飛行機に気づいたが、続いて巨大な葉巻型宇宙船を見た。新たな予感に従つてアダムスキーは、自分がハ

アダムスキーやパロマー・ガーデンズに住んでいた。これは二百インチ望遠鏡のあるパロマー山の斜面である。自分を「哲学者、学徒、教師、円盤研究家」と述べた彼は、その天文台の職員と関係はないと指摘している（訳注：これは誤りで、彼は「職員ではないが、その職員の幾人かと親しくしている」と言つたのである）。正規の職業は述べられていないが、アダムスキーはパロマー・ガーデンズのレストランと一緒に作動させていたと聞いたことがある。近くの砂漠に円盤（複数）がよく着陸していたと聞いたことがある。彼は、「これはたぶん乗員とコンタクトしたと称する人々から聞いたのだろう」、自分の運だめしをやることにした。四名の友人、秘書、レストランの経営者らと共に、彼は早朝出発した。このグループはアリゾナ州ウイーンスロウのA・C・ベイリー夫妻、パロマー・ガーデンズの所有者でレストランの経営者アリス・K・ウェルズ夫人、アリゾナ州ブレスコットのジョージ・H・ウィリアムソン博士夫婦、秘書のルーシー・マクギニス夫人から成っていた。アダムスキーは主として予感によつてコンタクトの場所をきめた。そこはデザート・センターからアリゾナ州バー・カーサ寄りの約十マイルの砂漠上である。彼はかねてから予感またはフイーリングに従う習慣を発達させていたのだ。昼食をとるために停車した一行は付近を旋回する飛行機に気づいたが、続いて巨大な葉巻型宇宙船を見た。新たな予感に従つてアダムスキーは、自分がハ

イウェーから約半マイル離れた地点へ行つてゐるあいだ、待つていてくれと一同に話した。宇宙船はその位置までの距離の一部をアダムスキーが車で行くにつれて、ついて来るようと思われたが、車が停まると宇宙船も停止した。

アダムスキーは二つの山のあいだの山んだ空間に浮かんでいる小型円盤を発見して、急いでその方へ望遠鏡を向けて写真を撮影した。すると円盤は見えなくなつた。しかし、そのあとまもなく彼は自分を手招きしている人物に気づいた。近寄つて見ると、それは円盤から出て来た人であることがわかつた。

その男は長髪で、きれいな顔をし、風

変わりな上下継ぎの服を着ていたが、それには縫い目がないようだつた。ズボンに似たズボンはだぶだぶで、とめ

バンドで締めたかのようになるぶしの所で締まつていていた。腕の部分も手首まであり、腰のまわりにはバンドを着けていた。年齢は二十八歳ぐらいで、体重は百三十五ポンド、五フィート六インチ（約百六十五センチ）と思われた。

相手は友好的で微笑んでいる。アダムスキーは急いで相手との意志伝達を試みた。相手はやや中國語に似た奇妙な言葉で話し、英語を理解しなかつた（訳注：正確には「かつて地球上で話された古代語の一つであつたと思われるような言語と中國語との混合のようになつた」）。アダムスキーは手まねとメンタル・テレビシーよりつて相手に話すことができたと述べている。

相手は金星からやつて來た。ただし円

盤は太陽系内外の多くの惑星から来るという。相手によれば我々の太陽系のあらゆる惑星には人間が住むということで、相手の任務は原爆によつて起こる放射能を調査することにあるらしい。地球に対する核爆発の危険をあらわすため、訪問者は地面を指さして「ボーン！ ボーン！」と言つた。相手は神信じていた。

ただしこれは、相手の惑星の人々は唯物的な地球上で地球人が信じている神よりも、創造主の法則を重んじているのだということをアダムスキーに信じさせた。肉体的には宇宙のあらゆる人間はみな同じような姿をしているのだと、訪問者は言つた。

奇妙な足跡

金星人は写真に撮られることを拒否したので、アダムスキーはしつこく要求して縮まつていていた。腕の部分も手首まであり、腰のまわりにはバンドを着けていた。年齢は二十八歳ぐらいで、体重は百三十五ポンド、五フィート六インチ（約百六十五センチ）と思われた。

相手は友好的で微笑している。アダムスキーは急いで相手との意志伝達を試みた。相手はやや中國語に似た奇妙な言葉で話し、英語を理解しなかつた（訳注：正確には「かつて地球上で話された古代語の一つであつたと思われるような言語と中國語との混合のようになつた」）。アダムスキーは手まねとメンタル・テレビシーよりつて相手に話すことができたと述べている。

相手は金星からやつて來た。ただし円

類に発表された。

砂漠で撮つた写真はどうやら円盤の放射線でだめになつたが、再度パロマー・ガーデンズへ来た円盤の写真類はすばらいいものである。それらには円盤が大きく鮮明に写つており、球型の着陸装置が見えている。これも同書に載せてある。

UFO問題は混乱している

以上、私は文字どおりに同書を要約した。これは同書のその部分を立証したり反証したりする機会がほとんどなかつたからである。レスリーの古代円盤に関する諸説は、昔の写本類と関連があり、正

当なやり方による解釈を導入している。ここでは古文書の問題に立ち入らないことにしよう。というのは現在のUFO問題は混乱しきつており、関係ある各種の学問について、はなはだしく無知な我々は、お手上げの状態にあるからだ。たとえレスリーの諸説が信用できないものであるにしても、とにかくべらぼうに面白いので、それを攻撃したくはない。

アダムスキーの話を切り離してみてもこれも全く攻撃は不可能であると思う。

たしかにアダムスキーには目撃証人があつたが、彼らは半マイル離れていた。その一人はムービーカメラを持っておりアダムスキーは葉巻型母船を撮影しなかつたことについて、うまい弁明をしてい

れかがムービーに撮つたかどうかについて言及していないが、たぶん遠すぎたのだろう。目撃者の一人は双眼鏡で状況を観察して、訪問者のスケッチを描くことができた。

善良な宇宙人の出現が意味するもの

私が初めてこのスリルに満ちた物語を読んだとき、アダムスキーの叙述には貫して正直さがあるという印象を得た。そして彼が眞実を語つていてことをほとんどの疑うわけにはゆかなかつた。

しかしこの物語はあまりにもファンタスティックなので信じられなかつたのである。私は自分を満足させるような解釈を見い出そうとした。おそらく一機の円盤と異星人がいたのだろうが、もし別な目撃者の考え方で見られたとすれば、このような刺激的な光景の解釈は、かなり異なるものとなつたことだろう。その体験の宗教的な調子は、アダムスキーの次の言葉で裏付けられている。

「しかしその特權に対する言い知れぬ喜びがあつたし、今もあるのだ。私は地球とは別な世男から来た友を一眼見ることが許された。……しかもその一人と話合つたというこの恍惚感」

これは明らかに、宗教的な著述をした人々にしばしば起つたと思われるのと同じ崇拜の体験である。

これは明らかに、宗教的な著述をした人々にしばしば起つたと思われるのと同じ崇拜の体験である。

とにかく、我々が使用するような言語による意志伝達は行われなかつた。会話は手まねとテレバシーで行われたが、こ

のいすれにも解釈に誤りが起る可能性がある。そして我々は、円盤は“だれにでも手に入るもの”になりかかったとの考えを強めたのである。

宇宙人は、地球人が「彼らはこのよう振り舞うだろうと」考えるような振る舞い方をするだろうか。

悪魔のような地球人が小人を見れば、相手はツノを生やしているように見えるだろう。

したがって、この推理によれば、訪問者が態度や話し方において親切で善良であり、キリストのようであったということは、アダムスキーの信用にとつて、きわめて有利だった。

事実かフィクションか

もし私の推論がスジの立ったものであれば、砂漠でアダムスキーの見たものが何であれ、また発生した事件をいかに正確に彼が報告したかは別として、彼はたしかに慈悲と優しさに満ちた魂の持ち主であつたということになる。なぜなら、彼は円盤から人類に伝えられた“善”的みを見たからである。これはおそらく彼自身の願いと理想の反映なのである。

以上が、私がいまだに“世界最大の円盤物語”と考えている書物を初めて読んだときの印象であった。

事実か？ フィクションか？ 多数の円盤研究家は、このどちらかをすぐに答えるだろう。だが私にとってはそんなに単純なものではない。

もしジョージ・アダムスキーが眞実を

語ったとすれば、それは“空飛ぶ円盤は着陸した”の中に書かれた体験に関するものであると我々は個人的に考えている。同書に掲載された写真類も眞実のものであると我々は信じている。もつと事実を知らせよという大衆の要望に鼓舞され、ベストセラーになった同書から得た知名度に刺激されて、アダムスキーは二度目の書物“宇宙船の内部”に書いたような事件をでっちあげたのだろうか？

同書でアダムスキーは宇宙船に乗ったと称し、その記述は更に作為的になつた。この書に掲載されている写真類は、きわめて疑わしいものであった。

人間はフィクションを重ねやすい

我々は宇宙人とコンタクトしたと称する人、靈媒、ボルタガイストなどに等しくあてはまる持論を持つている。氣味悪く、ファンタスティックなものであつても、眞実な事柄が個人に発生すれば、本人はそれを世間に発表する。人々はその話を聞こうとして遠方から来訪し、更に詳しく述べる。靈媒は途方もない幽霊物質化交霊会を開くが、意のままに靈魂を出現させることはできない。ボルタガイストは家中に物を投げ始め、人々はその噂を聞いて、見にやつて来る。

円盤の“コンタクトティー”は、大衆を失望させないようにと考えて、更に事件をでっちあげるかもしれない。必ずしもそれども、動かぬ証拠を突きつけられると個人的にアダムスキーを罵倒できなかつた。

いたずら好きな靈魂が花瓶などを投げたりする家の子供たちは、自分が最初に無意識に起こした現象を繰り返そうと考へる。そこで子供は何かを投げて暴露される。「インチキだ！」と大衆は叫ぶ。

アダムスキーは人を魅了した

ジョージ・アダムスキーはN.I.C.A.P.(空中現象調査委員会)の会員資格から除外されている。ドナルド・E・キーホーの率いるこの団体は、明らかにアダムスキーの物語を取り入れることを恐れており、第一書に帶びていた眞実の響きを第二書が持たないというのを弁解のたねにしている。

アダムスキーが果たした役割

多くの人はジョージ・アダムスキーを信じなくなつた。彼らはアダムスキーを狂人と呼び、別な靈媒の所へ走つたり、新たに出現するボルタガイストを見に行つたりする。

そしてたぶん宇宙人は——もし実在するならば——満足して笑つてゐるかもしない。たぶん彼らは地球人に円盤の存在を気付かせようとしたのだろうが、あまり気付かせすぎないようにもしたのだろう。彼らは、発生しようとしている現象に対して、大衆を“おだやかに”準備させようとしたのだろう。

一万、多くの“客観的”な“科学的”圓盤研究家は、アダムスキーはインチキをやつていたと声を大にして非難したけれども、動かぬ証拠を突きつけられるとそこへ着いてから私はアダムスキーがそこに埋葬されていることを思い出して墓地の管理事務所へ行つて尋ねた。地図をもらつたが、それには彼の墓の番号と位置がはつきりと記してあつた。

同行した社長と夫人はジョージ・アダムスキーがだれであるかを全く知らないがつたし、私が説明しようとしたのに、墓を探している理由も知らなかつた。私の親類の墓でも探していると思つたのだ

なぜならジョージはどこへ行つても自分を非難する人を魅了したからである。

敵がいかに辛辣であろうとも彼は快活な態度を保ち、それは相手の否定的な言動を制した。おそらくこのことは敵が決して彼に抵抗できなかつた一つの理由であろう！

私は多くの機会にアダムスキーと文通したので、彼をかなりよく知つていて思つていた。そして、ぜひとも個人的に会いたいと切望した。そして長く待つたが一九六五年四月二十三日の夕方、メリーランド州シルバースプリングズで心臓病のためにジョージは逝つたのである。

アダムスキーは人を魅了した

アダムスキーの墓を見つけて、私は碑

銘を読みながら立っていた。雲が熱い太陽を覆い、一瞬、涼しくなった。急に私は博物館見学や観光の長い一日の緊張から、体がくつろぐのを覚えた。写真を撮つてくれと社長夫人に頼んで、墓石のそばに立つた。

そのとき一台の車が、近くのハイウェーにとめてあつた私たちの車の後ろに近づいて、若い男女が出て来た。微笑しながら二人はこちらへ近寄つた。彼らもジョージの墓を探していたのだ。

彼らは墓参のためにカナダから来たのである。私の墓参はあとからの思いつきだと考えて少々恥ずかしくなってきた。「私たちはアダムスキーの書物を非常に興味深く読みました。それで彼が眠つている場所を見学したくてしようがなかつたのです」と婦人が言つた。

彼らは近くのアレキサンドリアの友人の地所から野花をつみ取つて、婦人がそれで花輪を作つており、彼女はそれを墓にかけた。

微風が吹いて、美しい花が揺れる。この花も、おそらく数日前に未知の人がジョージの墓に供えた他の花と同様に、まもなくしほんで枯れるのだろう。

しかし、事実かフィクションかは別として、ジョージ・アダムスキーの物語は永久に滅びないだろう。

それは私と同様に他の人々をも興奮させ、何かを考えさせるだろう。そして最後には疑惑を起こすかもしれないが、一方、人々は宇宙の謎と、この惑星地球における人間の役割について、深く探求す

るようになるだろう。

彼らが心からジョージ・アダムスキーを信じようと信じまいと、彼らの探求によつて多くの悪魔を一掃したのだ。それは黒衣の三人男が潜む暗黒の場所に光を投げかけたのだ。

恐怖、抑圧、迷信などに満ちた忌まわしい暗黒の世界は、やや押し返された。人々は微笑し、同じ探求の道を歩んできた仲間のと友情を愉しんだ。

人々はもう「宇宙人」なるものを全く信じなかつた。なぜなら自分自身が宇宙の子であることをついに認識したからである。

そして彼らは時折ジョージ・アダムスキーの墓を訪れるだらう。一偉人が彼らに偉大な真理を伝えたことを全然知らないで――。

彼らは二千年前に別な人が全く同じようにして真理を伝えたことにも気付かないだらう。

△Book of Adamskiより／久保田八郎訳

不 死

人間愛の昂揚を求める哲人が或る年月を経て、肉体に対し自己の魂の目的を終えるとき、彼は世を去つて、精神の昇華に必要な自由を愉しむ権利を得る。哲人の群れのなかには、死を装つた多数の仲間が名を連ねている。

彼は死ぬふりをしたのだろう。自己を別な場所へ移そうとして或る場所で死を装う哲人達と同じように。

筆者グレイ・バークー氏は「黒衣の人男」を書いた人として著名である。つまりUFO問題が一般化するのを阻止しようと暗躍する謎のグループの活動を描いたものである。

バークー氏による本記事の内容には納得しがたい部分があるけれども、一応参考のために掲載した。原文はきわめて用心深い、かつ抽象的な記述であり、バークー氏の真意は汲み取りがたい。

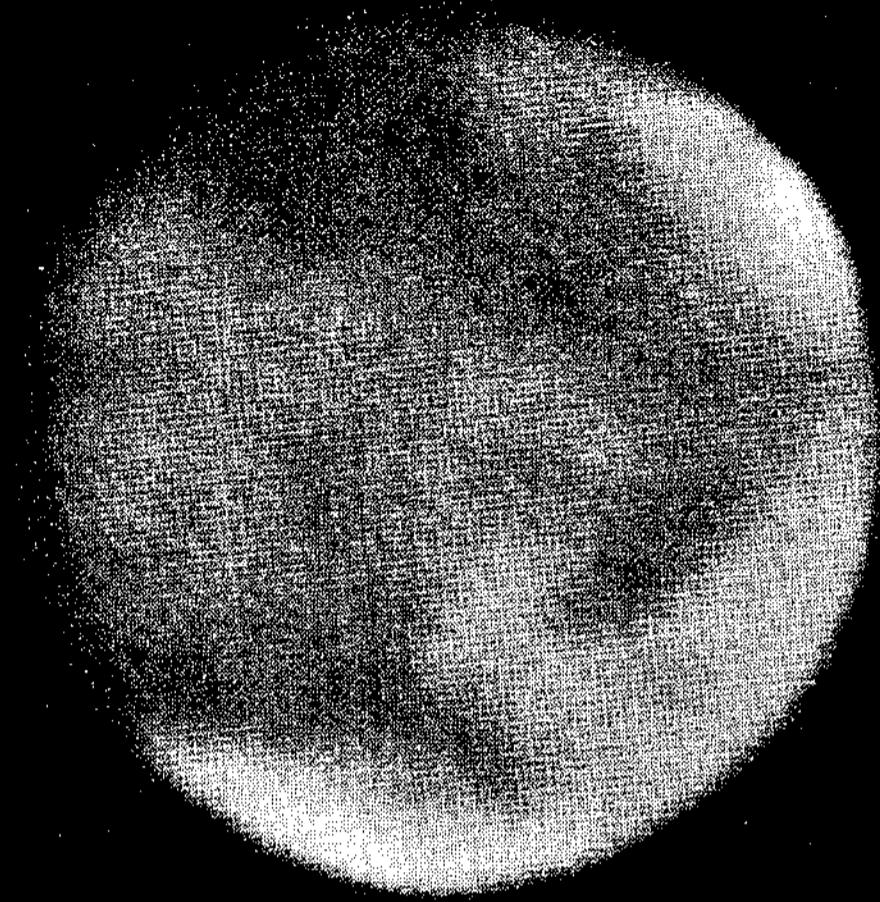
△ラールのモンブランの修道院長

Book of Adamskiより

火星の生命

フレッド・ステックリング

火星に知的生命は存在する!?
バイキングによる謎の縞模様の
発見は何を意味するのか



数世紀のあいだ地球人は夜空を通して見られる遠い惑星に「生命」が存在するかどうかと考えてきた。太陽から四番目の惑星で、金星とともに地球上二番目に近い火星は、我々の知っているような生命を発見するのに最適の推測目標といえるだろう。

科学者の生命存在説

それは一八七七年に有名な火星の「運河」を発見したと報告したイタリアの天文学者ジョバンニ・シヤバレリによつて始まつたと思われる。知的生命でないとこのような構造物は建設できないと考えられたのだ。

その後、今世紀初頭に米アリゾナ州フラグスタッフの天文台で活躍した名高いペーシバル・ロー・ウェルは、一九〇六年に火星観測の一派門家になつた。彼もシャバレリの「運河」を発見して、これを裏付けたのである。

すると、有名なニュース解説者で俳優のオーソン・ウェルズが、一九三八年の有名なラジオ放送によつて数百万のアメリカ人を恐怖におとしいれた。ニュージャージー州に着陸した火星人による現実の侵略として描いたドラマだつたのだ。

(訳注)このドラマを本物の事件と勘違った数十年後の一九六〇年代に、ソ連の天文学者(複数)が科学界を驚かせた。火星を綿密に調査した結果、この赤い惑星の二個の衛星は人工衛星と思われる、と

いうのである。観測した結果、二と三の謎の事実に基づいてこの結論に達した。二個の衛星(フォボスとダイモス)は火星に接近して軌道を描いている(三千七百マイル)。通常なら、それらはいつか火星上に落下するだろうし、両方とも自然の天体にしてはあまりに光の反射が強烈すぎるのである。最大の謎は、両衛星が時計廻りの軌道を描いていることだ。他のあらゆる衛星は反時計方向に動いているのである。無数の星を伴う銀河系全体すら反時計方向に動いている。しかし火星の二個の衛星だけは違うのだ。それはよいとしても、直径五マイルと十マイルの二個の天体が人工的な物であるという説には少々議論の余地があり、空想を高めるものである。

一九六九年十一月十六日、トップクラスマの科学者で天文学者のハロルド・C・ユーリー博士は、ソ連の学者と同じほどの驚くべき発言をした。博士はテキサス州ヒューストンの有人宇宙船センターで次のように述べたのである。

「我々が火星へ有人宇宙船を送る場合は極力注意しなければならない。火星の生命体は敵意を持ち、宇宙飛行士が地球へ帰還するのを妨害するかもしれないからだ」

ユーリー博士は化学の分野でのノーベル受賞者である。同じ論文で宇宙開発計画を擁護し、我々にはそれを実施する余裕がある、というのは、米国GNPの一パーセントのわず塙かしか要しないからだ、と述べている。

米市民は生命を期待している

れによる真の発見事や大抵の写真是、今まで公表されていないということである。

科学者は誤っていた

一九七六年に眼を転じてみよう。最近のバイキング一、二号は、以上あげた科学者たちの誤りを証明したかにみえる。

しかしこの二個の探査機の成果を長時間調査研究してみると、読者のなかには驚く人もいるだろう。前記の科学者たちは誤っていないと言えるのである。以下、私は自分の発見した事実をなるべく論理的に説明して読者の評価にゆだねたい。

一般大衆の反応は次のように分類できる。米国中でインタビューを受けた百名の市民の内、四十パーセントはバイキンによる完全な生命存在否定説に失望した。五十パーセントは火星に知的生命が存在すると確信し、この計画を遂行した当局が何かの理由で隠していると考えている。十パーセントはバイキング探査機が火星へ送られたのではなく、月へ送られたと考へている。概して言えど、米国民の当局に対する大きな不信が存在しているのである。たしかに、ある不信感が存在するが、これは過去の隠蔽や、CIAやFBIのごとき教種の米政府機関が互いに非難し合つたりしたためである。考慮しなければならぬのは、UFO問題に対する大きな隠蔽策である。毎年五千名以上の専門家、バイロット、科学者、あらゆる階層の男女によつて目撃されるUFOは、当局の見解によれば存在しないことになっているのだ。

私が感じるのは、米国はなんとかして火星へ二個の探査機を着陸させたが、そ

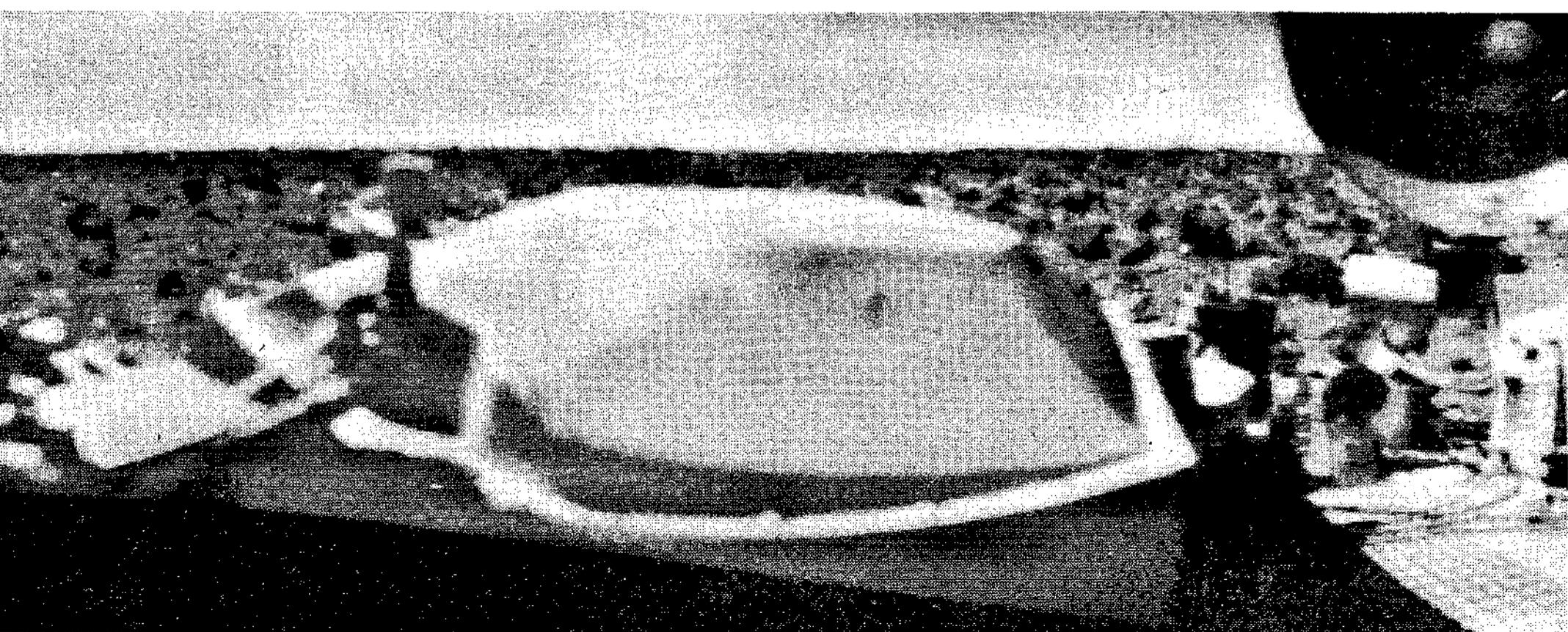
私は自分で研究しているあいだに次のようないき見をした。

火星は地球の大きさの約半分で、表面の重力は地球に比べて約四十パーセントである。また大気圧は地球の約一千ミリバールに比較して七・七ミリバールであるといわれている。火星の大気の密度は地球の大気の一パーセント以下といわれる。また火星の温度は真昼直後で華氏零下二十二度、夜間で零下百二十二度までさがるともいわれた。火星の赤道付近に着陸したバイキング一号は、極冠に近い一千マイル北方に接地した二号よりも低温を記録している。

科学者団は驚いた。彼らは大気測定中に百パーセントの誤りを発見したのだ。

火星大気中のアルゴン含有量は、彼らが予想した三十パーセントではなくて、わずか三パーセントだったのだ。同じ程度の誤りが別に認められた。我々が地球の測定から考えていたよりも、はるかに多量の水蒸気が発見されたのである。バイキング管制センターのジョージ・サンズ博士は言った。

「火星は我々が予測したよりもたしかに水分が多い。真陸地点には一日の内、ある時期に、地面に霧が立ちこめていた。大気中には三十ミクロンの水分が発見されているが、これは地上の霧ばかりか霜



や雪を降らせるのに充分な量である」

私は科学者ではないが気象学を研究しており、これにより火星の『地上の霧』は、その温度が公式発表よりもはるかに高いことを証明していると言えるのである。霧というものは寒冷地上または水上を移動する温かい湿った空気によって生じる。それは華氏三十二度の氷点以上の温度の產物なのだ。

次の事実も興味深い。地上推定千五百フィートの高度で雲が撮影されているのである。このような雲や地上の霧などはわずか七・七ミリバールという気圧では生じないと私は断言したい。地球の雲は四万フィートに達することもあるが、それでも地球の気圧はまだ二千ミリバールあり、これはこうした雲を保つのに充分な気圧なのである。

火星の雲は一万五千フィートまで存在するといわれている。したがって少なくとも一万五千フィートまでの温度は華氏三十二度の氷点以上でなければならぬ。湿気を帶びた上昇気流が上方へ移動するとき、一定の高度で凝縮し、温度によつてある高度で雲を形成する。これを我々は凝結点と呼んでいる。ここで注目しなければならないのは、記録された火星の華氏零下百二十二度という低温は、ある地域に存在するもので、どこにもみられる温度ではないということである。地球の南極では華氏零下百二十七度の低温が記録されており、ここにも生命が存在することが知られている。

火星の大気は濃密？

バイキング探査機の問題に返ると、他にも不可解な点がある。

バイキング各号は地球重量で千二百ポンドあるといわれた。重力に関する報告によると、火星上ではこれら探査機の重量が約四百八十分の二になるという。パラシュートの大きさは直径五十フィートとなっている。五十フィートのパラシュートに四百八十ポンドの重量物を吊り下げるとき、地球の大気圏内ならば逆噴射なくとも充分に落下速度を落とすだろう。しかし希薄といわれている火星大気中では（地球大気密度の一百分の二以下）、五十フィートのパラシュートを使用しても全然減速効果はないだろう。そんな大気ではパラシュートを開くほどの空気分子があるかどうか疑わしい。そのように希薄な大気中で必要なパラシュートの大きさを計算してみると、直径約七千五百フィートを要することになる。

そうなると、こんな大きな物を収納する場所や重量などの問題が起つてくる。少なくとも二千ポンドになるだろうし、収納するには二百平方フィートの場所を要することになる。それは探査機自体よりも大きくなる。したがって科学者が五十フィートのパラシュートを用いたからには、火星の大気は、我々が聞いているよりもはるかに濃密なのである。ここで濃密というのは地球のそれに近くて生命を継続できる濃密さという意味である。五十フィートのパラシュートをつけた

●火星の砂漠地帯

この写真は9月3日午後3時58分にバイキング2号が着陸後すぐに撮影した2枚目のもの。場所はユートピア平原といわれる火星の北部地帯。これは330度回転して撮影したパノラマ写真で、地平線まで岩石が散乱している。中央の空が明るいのは太陽があるからだが、画面には見えない。



探査機は四千フィートの高度で切り離され、三個の逆噴射ロケットを作動させた。巨大な燃えるタイマツのような噴射は機体を減速させて、うまく軟着陸させた。しかし、この三個のロケットエンジンは数千度の高熱ばかりか莫大な推力を示している。この二つの要素は、接地前に着陸場所を完全に殺菌したばかりではなく、少なくとも周囲百フィートにわたって、生物学的に価値のある土を吹き飛ばしたのである。こんな地面で生命のシルシを発見できるだろうか。科学者もそう思つたのではないか。一方、あの小さなシャベルはその殺菌された土地を掘り続けて探索を続けているのである。

『サイエンティフィック・アメリカン』という雑誌に出た火星に関する最近の記事の中には、次のように述べてある。

「火星の環境は全く“生命”を排除するほどに敵対的ではない」。更に言う。

「バイキングから確答を得ようという我々の望みは、高すぎることはない」

風と砂丘の謎

更に興味ある別な点が見られる。たとえば、"オービター"によつて撮影された火星の砂丘は、米コロラド州のサングレ・デ・クリスト山系に見られるのと同じ密度、高さ、砂丘間の広さなどを持つてゐる。地球の密度の一パーセント以下にすぎない火星の大気中で、こんな砂丘ができるわけがない！

火星で砂丘を移動させるには、風速二百マイルまたはそれ以上のハリケーンの

ような風が必要だといわれているが、完全な零度以下の環境で、風速二百マイルの風がどこから来るかについては、スジの立つた説明は現在までなされていない。再度述べると、最初になんらかの速度をもつ風を生じさせるには、少なくとも火星のどこかが、温暖でなければならぬ。だれでも知つてゐるよう、風というものは、地面から温かい空気が上昇して、その空隙を埋める冷たい空気のかたまりが流れ込むことによつて生じるのである。バイキング探査機は四十マイルの風を記録しただけであり、二百マイルではない。そうすると、どうしてそこに砂丘ができたのだろう？ 更に考えると地球の一パーセントにすぎない大気と華氏零下百二十度の中で、どうして風が起くるのだろう？

我々はこれについて敏感になる必要があると思う。というのは、多くの物事が全く道理に合わないようと思われるからだ。考えてみるとたしかにそうで、バイキング計画に従事する科学者たちもそうだろう。なにか曖昧な話が発生しているらしい。

観測の結果、火星の極冠は平らな雪やただの凍つた水であることがわかつてゐる。また、しばしば雪が降り、極冠上の大気には水蒸気が充満していることもわかる。あらゆる惑星は基本的には地球と同じ成分でできることを考えずに、生命はわが小さな地球にしかないといふ仮定でもつて、他の惑星へ探査機を送ろうとする限り宇宙探陥に難儀をするだろう。

惑星といふのは、その大気を打つ太陽光線による摩擦というかたちで、太陽の放出によつて形成されたこれは、アマゾン河の流れを小人のように見せるものである

にまかせよう。

これが何を意味するかは、読者の考え方

にまかせよう。

読者にもわかるように、人間は眞実を探求しなければならない。求めれば与えられると言つてゐる。ここに筆者の机上に届いたばかりの報告がある。これはA P電である。

「火星の北部地域の新しい写真は、謎の模様を示してゐる。この惑星の赤い表面に刻まれた等高線みたいなのだ。科学者は不可解だと言つてゐる。『我々は不思議な物を見つけた。全くの謎だ』と、バイキング2号オービターから送られた火

星の写真を解説するチームのメンバーで

や夏で、極冠は相変わらず小さい」。ここで私は知りたい。零下の温度でどうして水が解けるのかと！

ごく最近、パサデナのバイキング管制センターを退職したマーティン博士は、国際宇宙科学技術アカデミーで述べた。

「火星上の我々の生物探査機は、有機体ではないにしても、生物学的に“生命”的なシルシをつかんだ」

あれほど焼けただれた着陸地点で、生命のシルシを発見したとは驚くべきことである。

火星の環境を分析した結果、そこには炭素、窒素、酸素、かなりの水蒸気などの存在を示した。これらが“生命”を支える基本的な成分ではないか。

「もしバイキング探査機をパサデナ駐車場において、そこから火星と同じ化学的、生物学的な探査結果を得たとすれば、我々は確実な生命のシルシを発見したと言つただろう」

これが何を意味するかは、読者の考え方

である

読者にもわかるように、人間は眞実を

探求しなければならない。求めれば与えられると言つてゐる。ここに筆者の机上に届いたばかりの報告がある。これはA P電である。

「火星の北部地域の新しい写真は、謎の模様を示してゐる。この惑星の赤い表面に刻まれた等高線みたいなのだ。科学者は不可解だと言つてゐる。『我々は不思議な物を見つけた。全くの謎だ』と、バイキング2号オービターから送られた火

星の写真を解説するチームのメンバーで

要とするのであって、大気なくしては存

在できない。さもなければいつか崩壊するだろう。

火星の水量は、もしその内部の水を全部放出したとすれば、深さ一マイルの海洋で全体を覆うほどあると分析されている。一方、極冠は二分の一マイルの厚さを示している。

運河を撮影！

あるマイケル・カーラーは述べた。カーラーによると、目標地域の最新の写真類は、農場を耕したあとに空中写真を撮ったかのように編模様を示しているという。『この縞は整然として、自然のものとは思えない』とカーラーは述べている。何がそれを作り出したのか？『可能性については私は全くわからない』とカーラーは答えて『人工的なものだと充分に考えられる』と言っている。

ここで最重要的事実を読者に指摘したい。バイキング関係科学者による『人工的』という発言は、我々が探し求めている火星の生命をバイキング一号が発見できなかつた後にされたということである。

この記事の結論として、私は信用おけるものは信用したい、しかしそれでも大気圏外の発見事に関しては曖昧な話を聞かされる、と言いたい。我々は文明人として、宇宙空間に進出することにより莫大な知識を得ていいのである。我々は一般大衆によつて認識される以上に大気圏外からの地球観測と写真撮影により、地球に関して多くを知つてきた。地球を回る軌道に乗せた人工衛星は、地球の汚染問題を知らせている。我々は気象のパ

編者付記

筆者フレッド・ステックリングはドイツ生まれの米人で、若い頃米国へ移住した。アダムスキーの高弟で、現在は米GAP本部の重鎮としてアリス・ウエルズを助けながらテレビ、ラジオへの出演、講演会の開催等、米西部でアダムスキー問題の啓蒙運動に大活躍を続けている。

あるマイル・カーラーは述べた。カーラーによると、目標地域の最新の写真類は、農場を耕したあとに空中写真を撮ったかのように編模様を示しているという。『この縞は整然として、自然のものとは思えない』とカーラーは述べている。何がそれを作り出したのか？『可能性については私は全くわからない』とカーラーは答えて『人工的なものだと充分に考えられる』と言っている。

ここで最重要的事実を読者に指摘したい。バイキング関係科学者による『人工的』という発言は、我々が探し求めている火星の生命をバイキング一号が発見できなかつた後にされたということである。

今後も判明するだらうが、人類の未来は大気圏外の研究調査にかかっているだろ。人間が『ホーム』と呼んでいるこの小さな世界を評価できるようになるのは、大気圏外からなのである。しかし、いつの日か地球の様相が緊迫したとき居住に適した別な惑星を発見するために大気圏外へ進出する必要が起ころう。

この計画で費される金なら一ドルといえども有益である。人間は平和裏に多忙となり、一方では学ぶことにもなる。この宇宙開発計画は、いつか人間に宇宙空間を探険させて、兄弟として共に働くための要素のすべてを含んでいる。この計画に徹底的に従事すれば、人類によけいな悲哀や悲惨事をもたらすだけの愚かな戦争をやる余裕はなくなつてくるのだ。

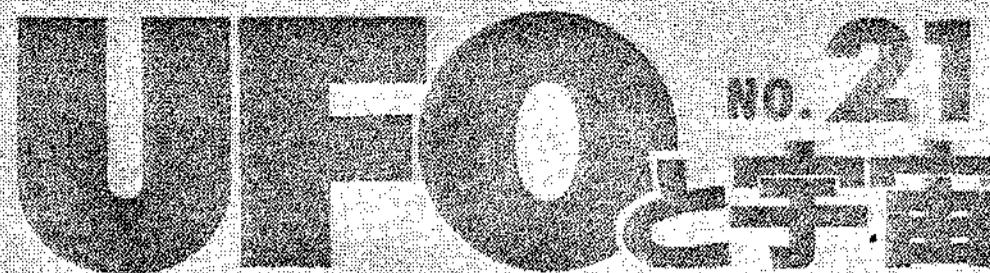
人間は自分を地上で最も知的な生物だと称している。それを証する黄金の機会をまもなくつかむだらう。久保田八郎訳

森林管理、既使用や未使用の高生産農業地帯などについて知つてきた。

地球を回る衛星により、我々人間は完全ではないこともわかつた。というのは初期の時代に、この地球にすら生命は存在しないという報告が出たからである。人工衛星が、地球には我々が知つていて

●フレッド・ステックリング(中央)、左へ編者、スティーヴ・ホワイティング。1975年11月、米GAP前にて。





隔月刊 1976/DECEMBER 目次

口絵

ヒレナーの怪	1
驚異の近接撮影	2
急上昇	4
第5回航空宇宙ショー開催	6

定価四三〇円

特集・UFO研究の現状と展望

日本を代表するUFO研究家3人の主張展開

①いまこそ本格的科学的研究を	高梨純一	16
②日本資料センター設立を計画	並木伸一郎	22
③UFO研究は人間研究	久保田八郎	25

UFO科学

空飛ぶ円盤の推進原理を探る

四次元航法の仮説 橋本健	28	複素重力場機関 清家新一	32
--------------	----	--------------	----

UFO資料

精密UFO大図鑑 38 UFO事件完全年譜 50

デニケンの先史宇宙飛行士説考察	竹中弦	64
-----------------	-----	----

月世界はUFOの中継基地か(完)	トン・ウィルソン	58
------------------	----------	----

最新情報 アルゼンチン沖合の海底にUFO基地?	83
-------------------------	----

私は宇宙人に身体検査をされた グレヴィン・ラントル	10
---------------------------	----

連載科学記事 レナード・クランプ

(続) 宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4)	91
--------------------	----

千葉県館山市にUFO現れ

小学生がカメラでパチリ!	56
--------------	----

日本初の「UFOフェスティバル」開催!	57
---------------------	----

UFO日撃レポート	70
-----------	----

UFO情報(国内・海外)	74
--------------	----

科学ニュース	82
--------	----

声・OPINION	102
-----------	-----

蜜の月	103
-----	-----

表紙デザイン 中村省三・福沢潤
レイアウト 福田忠雄 カメラ
菅原史崇 イラスト 中川恵司
内山洋見・松岡吉樹・石坂清



〒110 東京都台東区
上野5-1-6 ヤマトビル

株式会社ユニバース出版社

電話(832)1341(代表)
振替・東京レ-119478

1977・2月号

現代のナゾと驚異を追求する雑誌

創刊第2号発売中

集中研究・異常気象

キミは氷河期を生きられるか

池田誠也／須田龍雄／中村政雄
金子史朗／大後美保／飯田陸次郎



- 氷河時代
- 月面で原爆はできる
- 重大人情
- 朝日新聞で天の橋が残る
- 人口をさげてイニティは生きる

[2色]

自動車で走る大手町ノボルの自動車は水で走る

宇宙動物大図鑑2

豪華景品が当たる*シンボルマーク大募集!

カラーポスト ● 接近・地球の美女

- キングコングがやってきた
- 矢追純一の不思議写真
- 超残酷はお好き? ほか

ユニバース出版社

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
☎ 03(332)1341～1344 市内 03(332)1344

(八頁より)

その天体から十トンものチリを放出して、地球に落としているのです。地球すらも元は砂浜の一粒の砂のような微小な物質で、それが今日我々の知っているような大きさになつたのかもしれません。そして月は實際には巨大な天体だったのかもしれません、それが四十億年間、毎日、それ自体から十トンのチリを放つていたのかもしれません。現在、月に空気がないという声明が眞実であるとすれば、一体どうして月は多量のチリを放出できたのでしょうか。チリはどうやってそこを離れたのでしょうか。私たちはテープルや机の上などにゴミをためて、数時間、数日、数週、数カ月間とそのままにすることが

あります。余分な圧力がそれに加えられない限り、ゴミは動きません。それを払いのける風または人間の息がなければダメです。したがつて、月に空気がないという声明は誤っています。あの大量のチリを吹き飛ばす何かがあるにちがいありません。

(以下次号)

久保田八郎訳

●アダムスキーが使用した事務室に立つ編者

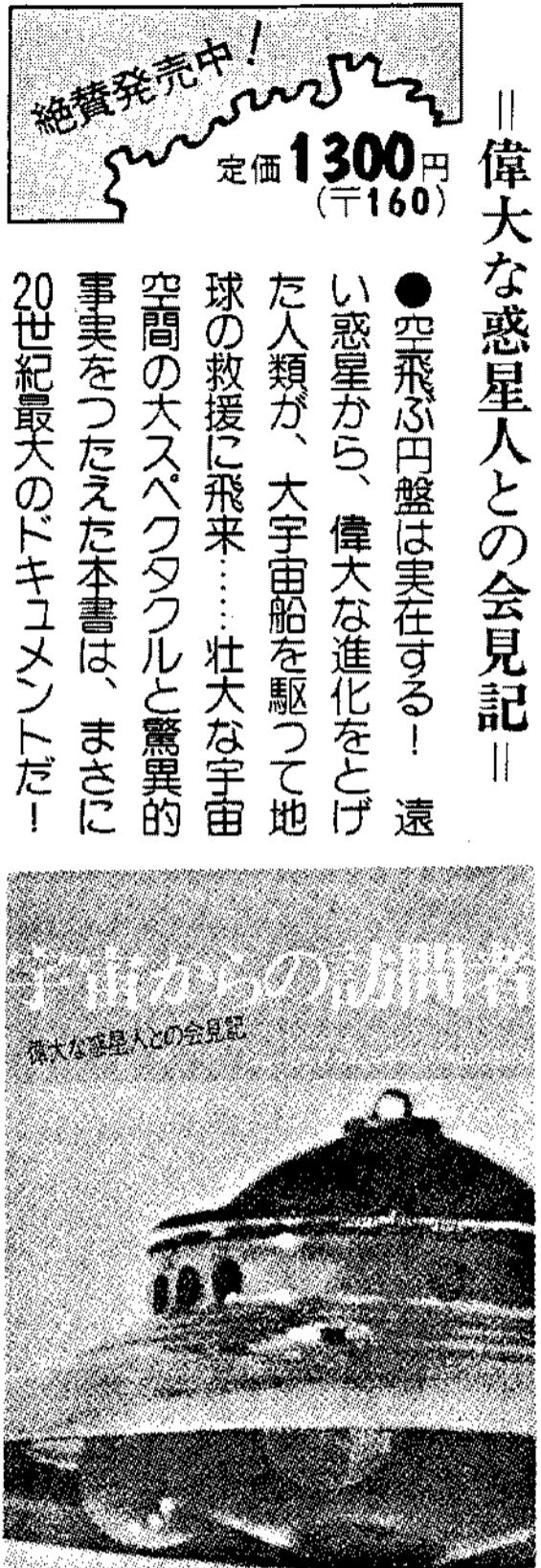


宇宙からの訪問者

■米ジョージ・アダムスキー財団より翻訳合本出版権獲得!

ジョージ・アダムスキー 著

久保田八郎 訳



●「空飛ぶ円盤は実在する! 遠い惑星から、偉大な進化をとげた人類が、大宇宙船を駆つて地球の救援に飛来……壮大な宇宙空間の大スペクタクルと驚異的事実をつたえた本書は、まさに20世紀最大のドキュメントだ!

ユニバース出版社

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
☎832-1341~44 振替・東京1-119478

●書店にない場合は直接小社営業部までご注文ください。

高知支部大会

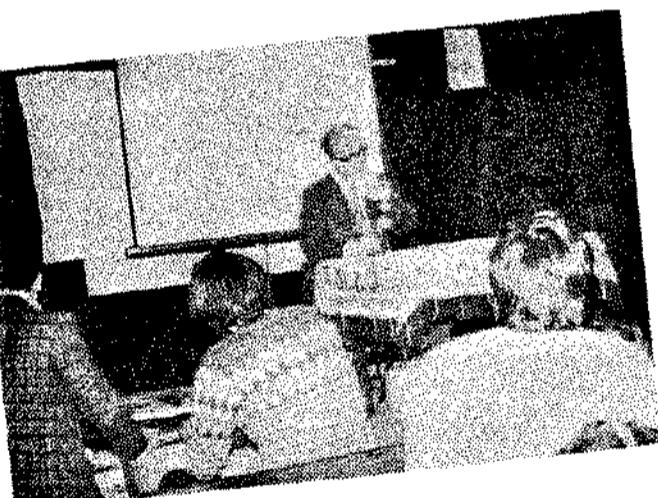
開催



●懇親会の右端は橋詰部長

去る八月二十九日（日）高知支部大会が高知市民会館で開催された。午後一時より六時まで編者の米GAPスライド映写、質疑応答等、参集した約四十名の方々の真剣な態度には瞠目すべきものがあった。終了後は別室で有志の方々により懇親会が開かれ、和氣あいあいたる雰囲気裏に親睦を深めることができた。橋詰支部長その他の幹事諸兄姉に深く感謝する次第である。高知市は由緒ある町のせいか格調高い空気がみなぎり、お会いした人々は高貴であった。

（編者）



十一月二十八日に開催された熊本支部大会もすばらしい会合であった。九州一円から参集された会員は五十六名。会場は熊本支部顧問・津野田俊行氏のご自宅である常通寺御山の本堂である。少々寒い日だったが、会場にはストーブが程良く配置され、設備には万全を期してすべてが準備されていた。

午後一時半より四時まで編者のスライド映写と解説を続けて、休憩に入り、そ

の間、オニギリその他の軽食を全員にサービス。四時四十分より六時まで質疑応答を行い、無事終了した。会場の雰囲気は真剣そのもので、参加者各位は第一級の人々であった。夕方より奥座敷で更有志の方々と夕食を共にしながら雑談を続けた。献身的に奉仕された津野田氏と立派な御両親、役員の齊所支部長、甲斐、工藤、沖住の各氏、浜田嬢その他の方々に心から御礼を申し上げたい。（編者）

昭和51年度

日本GAP総会開催

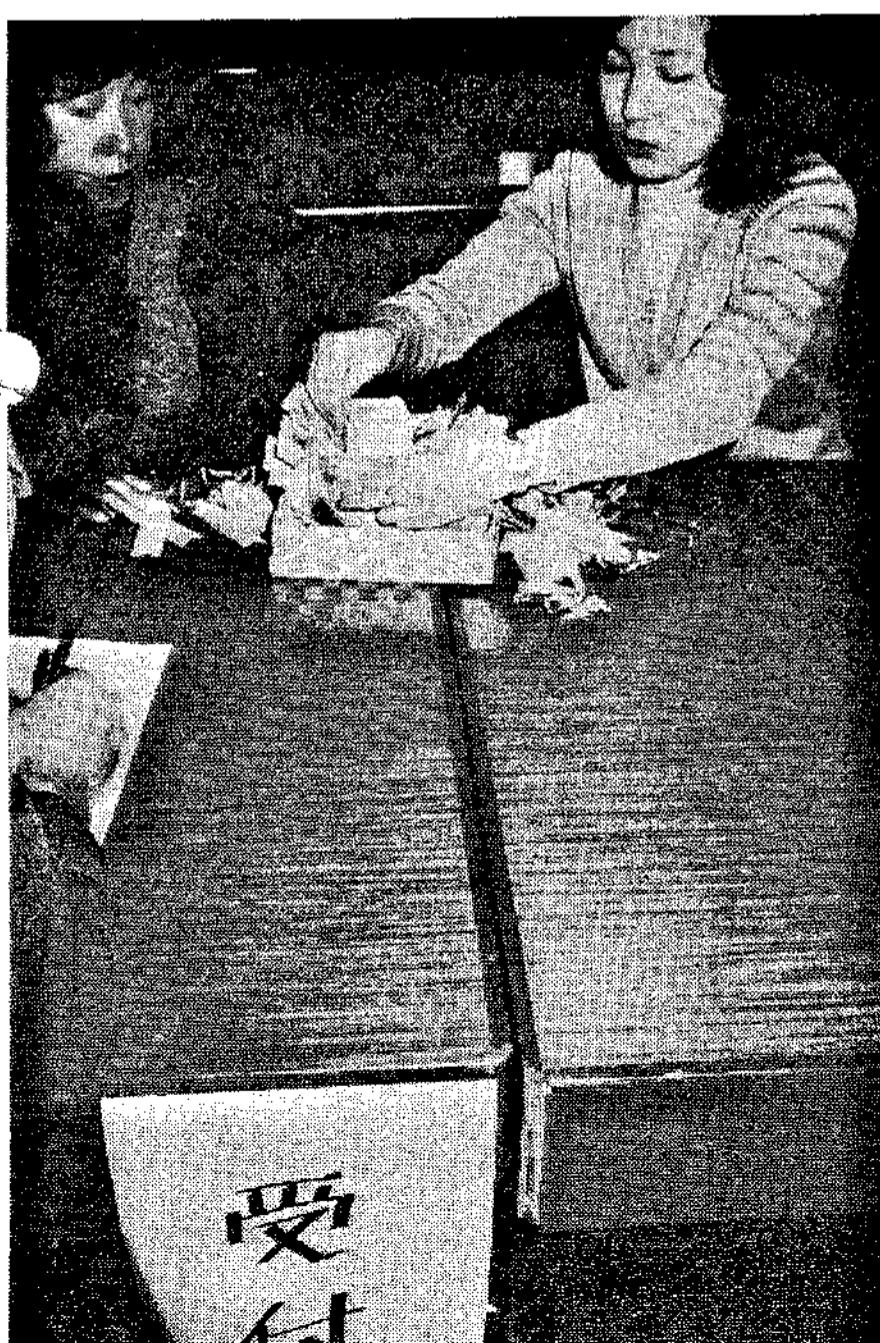
会場上空にUFOが出現！ 大盛況



晴天に恵まれた十二月十一日土曜日午後二時、東京・上野の東京文化会館四階大會議室で昭和五十一年度日本GAP総会が開かれた。会場の大會議室は、ふだんは落ち着いた静かな雰囲気だが、定員の三倍を超す二百六十五名が押しかけたとあって、この日ばかりは興奮に包まれていた。熱気を帯びた会場の最前列を占めているのは、総会のすべてを録音しようと開会二時間前から集まつて来た人たちで、片京氏の司会で会が始まる人々は、テープレコーダーのスイッチへと一斉に手を伸ばした。一方その頃、会場の外のロビーでは、あふれた人たち十数人がラジオをかこんで座っていた。ラジオは、会場内にセットしたマイクの電波を受信している。司会が終わり、久保田先生の挨拶、そしてアダムスキーリー最後の講演の録音テープ公開へと進む。会場は静まりかえり、その静けさは休憩時まで続いた。十五分の休憩が終わると次は亀田一弘先生の講演：会場はまたも静しうくなつた。小柄な身体から発する強力な想念に皆が魅了されてしまつたのだろうか。最後の質疑応答が六時に終り、今年も無事に閉会した。——無事といつても何もなかつたのではない。お知らせしたいことが二つある。一つは、今年も上空にUFOが現れたこと。二機のうち一機は会場の真上を飛んだ！ 目撃者四、五名。もう一つは、久保田先生の解説中ずっとそのうしろにアダムスキーリーが立っていた。といつてもこれは亀田先生の透視によるもの。これは今年集まつた人々へのプレゼントからのプレゼントかもしない。

(内野記)

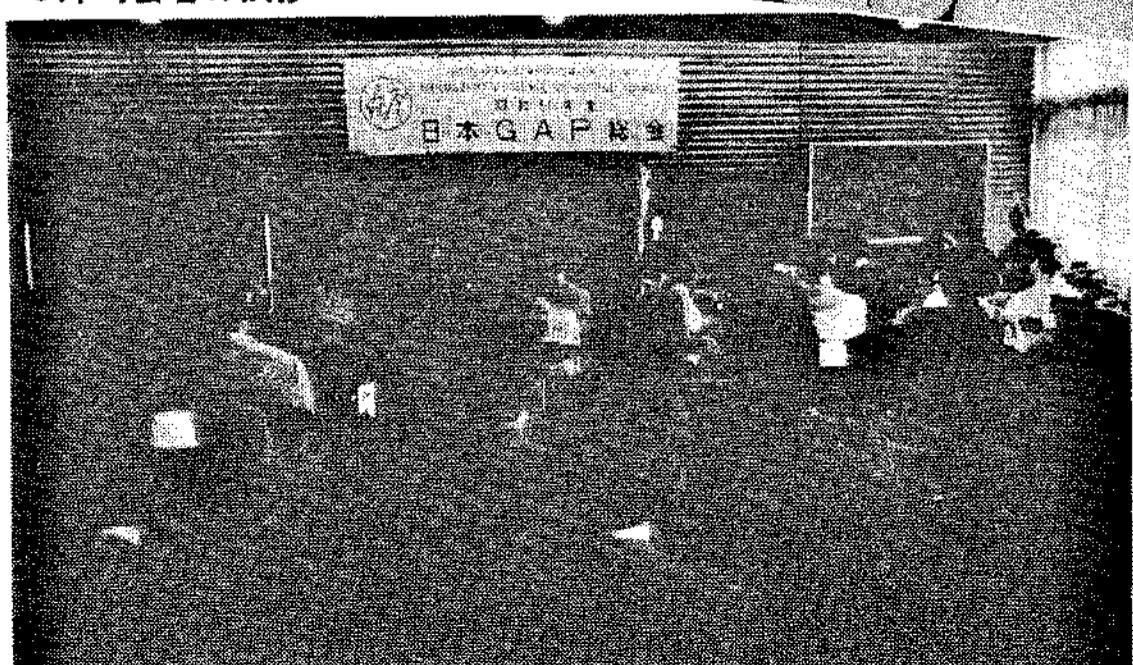
●受付



●会場入口の行列



●片司会者の挨拶



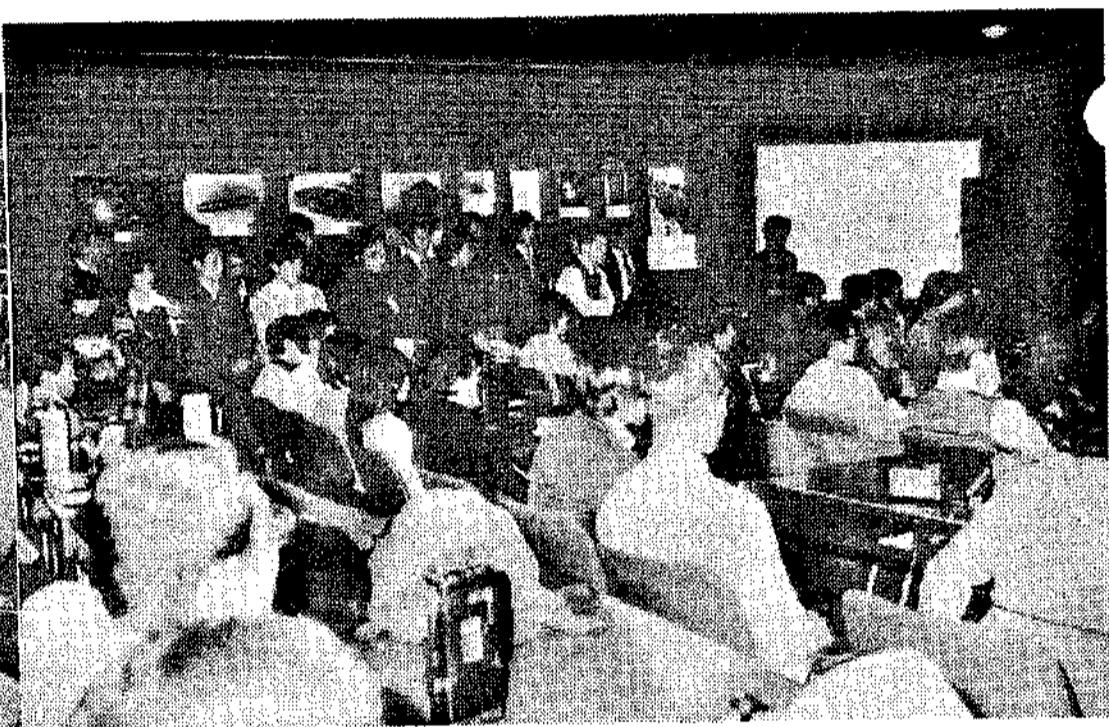


●久保田主宰者によるアダムスキー・テープ公開



外でスピーカーから聞く人々

●写真やメモをとる人々

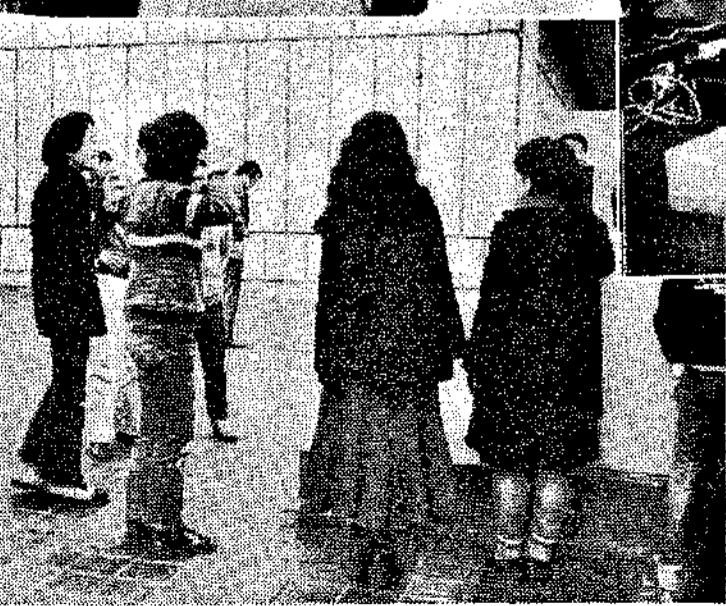


●立ち見の人々は長時間不動のまま……



●真剣なまなざしの参会者

左上は講演中の亀田先生
<写真撮影・菅原史崇>



●休憩のひとときをベランダで……

日本GAP月例研究会

日本GAPは左記のとおり東京本部、大阪支部、高知支部新潟支部、熊本支部の五ヵ所で毎月「月例研究会」を開催して宇宙哲学の研鑽、UFO研究、情報交換、テレパシー練習等を行い、会員の精神的向上と親睦を図っています。近辺の方はぜひご参加下さい。出席者は会員に限ります。

新潟例会	高知例会	大阪例会	東京例会
2、1、会日 252	2、1、会日 場時	2、1、会日 場時	2、1、会日 時
新潟駅前、厚生年金会館四階会議室 電話(43)3551 (右子約不可の場合、同駅前「青年の家」) 足立(62)0968(夜間のみ)	高知市棧橋通り二一一五五、「青年センター」 電話(31)4931 一〇〇円。 テキストとして「生命の科学」	大阪府吹田市出口町四丁目、「吹田市民会館」電 田駅」下車。 一〇〇円。	上野公園内「東京文化会館」四階会議室。電話 (828)2111。国電上野駅の「公園口」下車 改札口の真向かい。会館正面に向かって左側の入口から入り、奥のエレベーターから四階へ行く。 二〇〇円。
二月の月例会には久保田先生出席、米GAPスライド映写	テキストとして「生命の科学(文久書林刊)」を持 参。二時↓三時 「生命の科学」講義、三時↓四 時半 代表挨拶・報告・テレパシー練習・休憩、四 時半↓六時 自己紹介、研究発表、質疑応答。	テキストとして「生命の科学(文久書林刊)」持 参。二時↓三時 「生命の科学」講義、三時↓四 時半 代表挨拶・報告・テレパシー練習・休憩、四 時半↓六時 自己紹介、研究発表、質疑応答。	ご注意 昭和五十二年二月の月例会のみ第一土曜日(二月五日) ★ ★ ★

●11月13日、東京文化会館における日本GAP東京月例研究会。



熊本例会

4、3、会日
2、1、
時

每月第三日曜日、午後二時より五時まで。
熊本市桜町「熊本市民会館」会議室。
電話(55)5235。国鉄熊本駅前から市電「健軍」
行き乗車、「お城前」下車。同交叉点左折、徒歩二分。
一〇〇円。ご注意!一月と六月の会場は一本木の常通寺
学(同)二時↓三時久保田代表の東京例会における
テキストとして「テレパシー(文久書林刊)」「生命の科
質疑応答。学講義(録音)」三時↓五時自己紹介、座

アダムスキー 哲学三大名著 絶賛発売中！

スペースブラザーズから伝えられた宇宙的思惟法と宇宙的な生き方とを三部に分けて詳述。GAP会員必携の書。注文は各出版元へ直接にどうぞ。

G・アダムスキー 久保田八郎訳

宇宙哲学

¥750 〒160

東京都新宿区納戸町33 たま出版 振替東京94804

宇宙問題探求者必読の書

宇宙人から伝えられた人間の生き方を詳述
テレパシー ■ 生命の科学

ジョージ・アダムスキー/久保田八郎訳

¥450 〒160 ¥550 〒160

絶賛！ アダムスキーの弟子でありコンタクティーでもあったフレッド・ステックリングのすばらしい体験記と哲学！ 特に幼児教育について重要な示唆を与える。宇宙問題探求者必読の書！

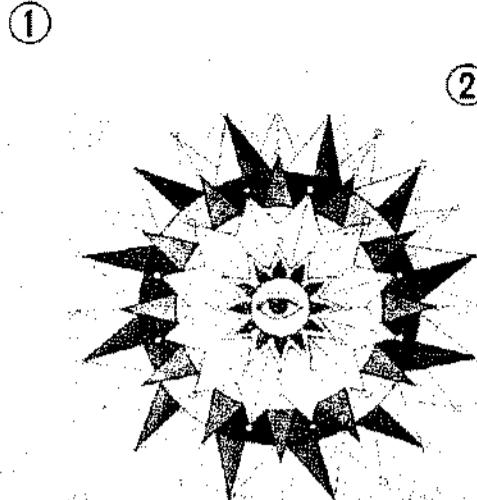
★★なぜ空飛ぶ円盤は来るのか★★

フレッド・ステックリング/久保田八郎訳

好評発売中！ ¥650 〒160

文久書林

東京都文京区白山1-29-12
振替・東京2521 Tel. (813) 2495



①

②

①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は“すべてを見透す眼”で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、スペース・ブラザーズとの一体化を図る上で重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①¥500 〒100 ②¥200 〒50 一括注文の場合 〒100

編集後記

■本号は六十号発行記念として、ジョージ・アダムスキー最後の講演の全訳第一回を掲載しました。この録音テープの一部分は去る十二月十一日の総会で公開しましたので、出席された方は、アダムスキーのすさまじい迫力に満ちた声をお聞きになつて感動されたことだと思います。なお、このテープのコピーのご依頼には応じかねますので、ご了承下さい。

■前号で予告しました編者のヨーロッパ出張旅行は予定どおり無事終了し、ジュネーヴでルウ・チンシユタク女史に会つて、貴重な情報や資料を入手しました。本号の会見記は会談の中の一部分で、実際はまだ多くの話を聞いているのですが、紙面の都合で割愛します。バーゼルからわざわざジュネーヴまで来てくれた彼女の厚き友情と懇意に深く感謝する次第です。

■グレイ・バークー氏の「世界最大の円盤物語」の原本は、GAP熊本支部顧問の津野田俊行氏から贈られたもので、ご厚意に感謝します。

■「火星の生命」は米GAP本部で出している機関誌「コズミック・プレーティング」に掲載された記事の全訳です。他の惑星の生命存在に関する米当局は真相を隠しているという編者の説はステックリングも唱えており、多数の米市民も同意であることがこの記事で判明しました。

■地方支部の活動も活発に展開しており、今年度は大阪支部、高知支部、熊本支部へ編者が出席して、アメリカGAP本部訪問スライド三百余枚の映写と座談を行い、交流を深めました。来春早々は新潟支部例会に出張の予定ですが、詳細は同地方の会員諸氏に通知されます。

■十二月十一日には東京文化会館で恒例の本年度GAP総会を行い、出席者二百六十六名という空前の大盛況でした。会場の椅子席が不足して立見の方が多く、全くお氣の毒で、深くお詫びします。来年の総会にはもっと広い会場を確保します。ご出席下さった方々に

心から御礼を申し上げます。

■卷頭言の「宇宙の意識」は紙面の都合で切り替わります。これが、次号でもっと詳細に解説する予定です。これこそ私たちが日常生活かさねばならない最重要な哲学で、これにより自己の運命が決するといつても過言ではありません。

良き運命、良きカルマを作るために、今後もこの宇宙的哲学の普及推進活動に頑張りたいと思います。ご期待下さい。

■あらゆる面につけて泥沼のようなこの世界で純粹な魂を保持して生きるのは至難の業ですが、諸般の事態が悪化すればするほど鉄の如き信念をもつて初志を貫徹しようという決意が湧き起ってきます。その意味で如向なトラブルも良きレッスンといえます。

■編者経営のユニバース出版社は日本GAPと全く関係はなく、これは編者の職場にすぎません。したがって、恐縮ながらGAP関係のご照会・ご連絡等は一切郵便により日本GAP本部（編者自宅）宛にお願い致します。

■ご送金は当方の事情により現金書留にされないで、必ず郵便振替でお願いします。整理の都合上、当会宛のあらゆる郵便物には会員番号を書き添えて下さい。

■ご質問は返信切手同封の上、手紙で遠慮なくお寄せ下さい。多忙のため早急なご返事はできなくとも、必ず差し上げます。(K)

GAPニュースレター 60号

編集发行人

久保田八郎

発行所

日本GAP

December 30 1976
価格300円・送料200円

〒133 東京都江戸川区本一色町365-818
振替東京4-35912(久保田八郎名義)